

令和元年度  
事業報告書

川崎市総合教育センター



はじめに

令和元年度は、次年度からの小学校や小学部での新しい学習指導要領の全面实施を控える中で、各学校が浮かび上がってきた課題を一つひとつ解決していくことが求められました。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の充実を促しています。総則では、知識・技能を習得して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などの育成や言語活動の充実、学習習慣の確立なども示されました。また、道徳教育の目標に「伝統と文化」「公共の精神」の尊重がもりこまれ、児童生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を推進し、情報収集、活用する教育の充実なども重要な柱となっています。

各学校では、この学習指導要領の趣旨の実現に向かって授業改善を進めながら、浮かび上がってきた課題を解決し、次年度に向けて最終まとめをしている学年末に、新型コロナウイルスの感染症拡大によって学校が臨時休業するという予想外の事態となってしまいました。このような厳しい状況の中、各学校が一丸となって、前向きに学校運営に取り組んでいただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。

川崎市総合教育センターといたしましても、各学校が新学習指導要領に基づいた教育課程の編成や指導方法の改善等の取組を推進していけるよう、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5センターが、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。この報告書はこれらの取組についての概要をまとめたものです。

- ①実践研究主題「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」に基づく長期研究員等による実践研究、指導主事による調査・基礎研究や施策研究への取組
- ②ライフステージに応じた研修体系に基づく研修・希望研修等の実施による教職員の専門職としての資質や指導の向上に資する取組
- ③拡大要請訪問・教育課程研究会等の実施、研究推進校への支援等を通じたわかる授業、特色ある学校づくりに係る学校支援
- ④教育の情報化に向けた研究及び授業力向上に向けた研修の推進、ICT機器の計画的整備、校務支援システムの運用、インターネット問題相談窓口の推進
- ⑤特別な教育的ニーズのある子どもの相談・支援及び学校の特別支援教育に関する支援の充実、特別支援教育に係る研修・研究の充実
- ⑥電話・不登校家庭訪問・来所面接による教育相談の実施、スクールカウンセラー配置及び学校巡回カウンセラー派遣、教育相談研修及び研究の充実
- ⑦所報・センター通信及び各種刊行物の発行

ここ数年間、総合教育センターの研究報告会には、申込者・来賓の方を合わせて、毎年約千名の方々に参加いただいております。教育に対する意識の高さと総合教育センターへの期待の表れと考えております。

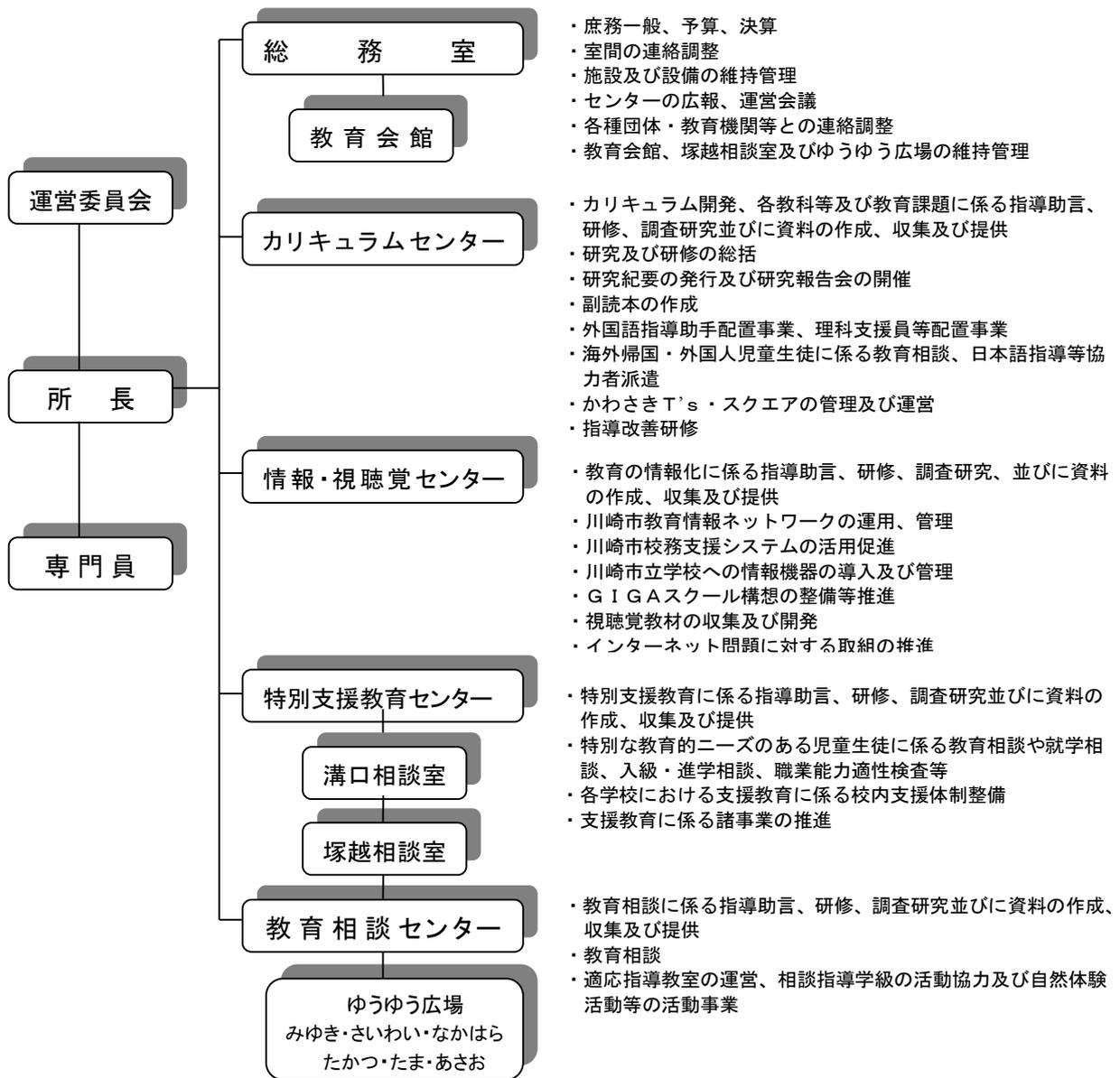
一刻一刻と変化する社会情勢、学校に求められる教育の在り方も多様化・複雑化している中で、総合教育センターでは、新しい情報の収集と発信、教育活動の改善に係る研究の推進等の一層の充実に努めるとともに、これからも学校支援に向けて研鑽に努めていく所存です。最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

川崎市総合教育センター  
所長 市川 洋

## 目 次

組織・事務分掌 .....	1
所員一覧 .....	2
運営会議委員 .....	3
予 算 .....	4
研究体系図 .....	5
1 調査研究 .....	6
2 教育関係教職員研修 .....	17
3 カリキュラムセンター事業 .....	27
4 情報・視聴覚センター事業 .....	31
5 特別支援教育センター事業 .....	37
6 教育相談センター事業 .....	42
7 広報及び刊行物等 .....	47

# 組織・事務分掌



## 会議

- 管理者会議(月2回)  
センターの管理運営に係る重要事項について検討する。
- 専門職等会議(年間5回)  
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え検討する。
- 学校教育部・総合教育センター等連絡調整会議(年3回)  
学校教育部、区担当、総務部教育改革推進担当及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間3回)  
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

## 担当者会議(月1回)

- 研究推進担当者会議  
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議  
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議  
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進  
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議  
『所報』の発行、『センター通信』等の広報活動の計画、推進

## 指導主事研修(年4回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

## 所 員 一 覧

平成31年4月1日現在

所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	
総務室	担当理事・所長	小松 典子	カリキュラムセンター	室長	鈴木 克彦	特別支援教育センター	室長	宮川 淳子	
	室長	岩城 美由紀		担当課長	辰口 直美		指導主事	指導主事	藤田 みどり
	担当係長	栗須 正則		指導主事	中野 正明		〃	〃	中村 めぐみ
	主任	佐藤 晃		〃	岩崎 知美		〃	〃	滝口 久奈
	〃	西野 宏		〃	鶴木 朋和		〃	〃	近藤 春樹
	〃	福原 佑子		〃	築部 めぐみ		〃	〃	鹿島 理子★
	事務職員	大嶺 綾子		〃	永田 賢		〃	〃	盛光 秀之★
	主任	坂本 光弘		〃	石井 芳宏		長期研究員	〃	佐藤 大輔
	〃			〃	高橋 徹				
	〃			〃	望月 隆				
情報・視聴覚センター	室長	栃木 達也	〃	鬼頭 洋司	教育相談センター	室長	渡辺 修宏		
	課長補佐	関口 大紀	〃	福岡 弘行		指導主事	指導主事	板橋 美由紀	
	事務職員	野村 晋	〃	伊藤 悦子		〃	〃	松田 典英★	
	〃	茅根 真帆	〃	越 有里		〃	〃	山田 礼子★	
	指導主事	椎名 美由紀	〃	伊藤 由佳子		〃	〃	松崎 博晃	
	〃	岸本 孝司	〃	半田 真規子		長期研究員	〃	間馬 雅子	
	〃	和田 俊雄	〃	新井 昭浩		カウンセラー研究員	〃	住吉 幸代	
	〃	草柳 譲治	〃	松本 崇					
	〃	岡田 智弘	〃	岡部 啓子					
	〃		〃	竹内 茜					
		長期研究員	〃	関 真由美					
		〃	〃	新田 瑞江					
		〃	〃	山崎 範雄					

★＝塚越相談室勤務

## 専 門 員

氏 名	現 職	専 門 領 域
両角 達男	横浜国立大学教授	算数・数学科教育
工藤 文三	大阪体育大学教授	教育課程
高木 展郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
森本 信也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
佐見 由紀子	東京学芸大学准教授	健康教育
太田 洋	東京家政大学教授	英語教育
原 克彦	目白大学教授	情報モラル教育
菅原 雅枝	東京学芸大学国際教育センター准教授	国際教育
野中 陽一	横浜国立大学教授	教育の情報化
永井 徹	首都大学東京教授	教育心理学
霜田 浩信	群馬大学教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
芳川 玲子	東海大学教授	教育相談
小林 宏巳	早稲田大学教授	カリキュラム開発

## 教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専 門 領 域
古荘 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴養 美昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

## 川崎市総合教育センター運営会議委員

氏 名	現 職	専門領域
山本 勇樹/ 館 勇紀	川崎市PTA連絡協議会会長 (令和元年7月に役員交代)	社会教育
小松 郁夫	流通経済大学教授	学校経営
有元 典文	横浜国立大学教授	学習環境
塚田 庸子	横浜国立大学客員教授	理科教育
赤堀 侃司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池田 延行	国土館大学教授	保健体育
三輪 ひろ美	神奈川県警 少年相談・保護センター川崎方面課長補佐	児童生徒指導
小川 信夫	玉川大学継続学習センター特任講師	人間理解
◎ 関戸 英紀	横浜国立大学教授	特別支援教育
明瀬 忠義	川崎市立小学校長会会長 川崎市立御幸小学校長	小学校教育
山田 英児	川崎市立中学校長会会長 川崎市立東橘中学校長	中学校教育
荒井 利之	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立川崎総合科学高等学校長	高校教育
○ 増田 亨	川崎市立特別支援学校長会会長 川崎市立田島支援学校長	特別支援教育
嶋田 和明	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

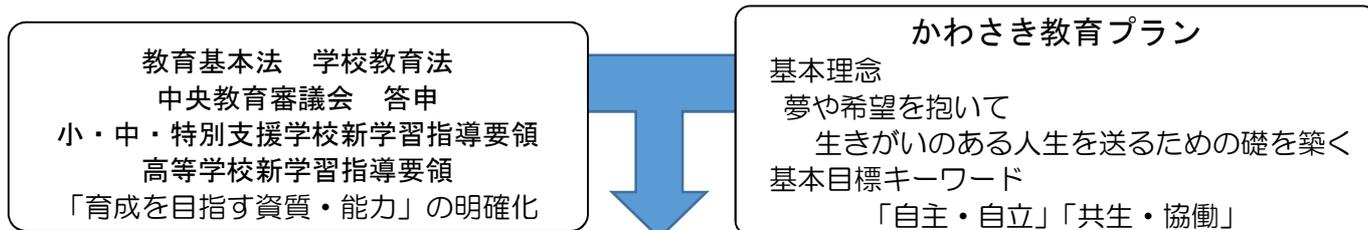
- ◎ 委員長
- 副委員長

予 算

単位 千円

科 目	年 度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
		千円	千円	千円
総合教育センター費		1,322,488	1,058,488	1,088,413
教育調査研究費		23,275	23,826	30,519
教職員等研修費		19,976	20,544	21,554
教育相談費		77,515	73,394	68,961
適応教室運営費		68,449	72,351	74,880
教育情報ネットワーク事業費		554,082	338,287	331,659
視聴覚教育費		1,650	1,734	1,727
平和教育推進費		770	759	767
外国語指導助手配置事業費		423,980	378,184	336,624
海外帰国子女等関係費		55,154	53,963	54,026
理科支援員等配置事業		16,976	17,241	17,367
カリキュラムセンター事業費		438	462	487
総合教育センター運営管理費		69,781	67,955	138,694
教育会館運営管理費		10,442	9,788	11,148
その他経費（教職員等研修費へ統合）		-	-	-
総合教育センター費外		1,451,725	1,349,900	1,504,814
学校教育活動支援事業費		353	632	618
児童生徒・指導相談業務費		99,244	99,259	97,554
教育課程・学習指導に関する事務		28,428	27,667	26,973
情報化教育推進事業費		1,321,581	1,216,851	1,373,882
特別支援教育推進事業費		2,090	4,168	4,180
人権教育推進事業費		29	464	635
子どもの権利学習等推進事業費		-	859	972

# 川崎市総合教育センター 令和元年度 研究体系図



## 川崎市総合教育センターの研究

### 実践研究

令和元年度 実践研究主題

#### 未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成

- 各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究
- 児童生徒の発達の支援に係る研究
- ◎長期研究員と研究員による研究（6）
  - 道徳：児童生徒の道徳的価値の自覚を深める授業づくり
  - 主体的・対話的で深い学び：「主体的・対話的で深い学び」を視点とした指導と評価の在り方
  - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導：粘り強く取り組む態度の醸成をめざして
  - 情報活用能力育成：児童生徒の情報活用能力を発揮させる授業づくり
  - 特別支援教育：「具体的な目標設定」による授業改善
  - 学校教育相談：川崎市における不登校の実態と支援に関する調査研究
- ◎指導主事と研究員による研究（8）
  - 社会科：時代を大観し、自らの言葉で表現する歴史学習
  - 美術科：造形的な見方・考え方を働かせる指導の改善に向けた研究
  - 技術・家庭科：自ら安全・衛生を意識し、主体的に活動する生徒の育成
  - 小学校外国語科：小学校外国語科における児童が意欲的に学習する動機付けになるための評価
  - 外国語科：外国語科における言語活動の研究
  - 特別活動：社会参画する意識を高める特別活動
  - 健康教育：心と体のつながりについて考える健康教育
  - 高校教育：課題解決の力を育む総合的な探究の時間を旨して
- ◎カウンセラー研究員による研究：一人一人を大切に「チーム学校」の構築に向けて
- 市内学校との教育の情報化推進を目的とした研究：旭町小学校 小杉小学校 川崎高附属中学校

### 共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
  - 研究大会での研究報告
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

### 施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

### 調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
  - カリキュラムセンター
    - ・校外研修（Off-JT）とOJTの有機的なつながりを目指して
  - 情報・視聴覚センター
    - ・川崎市立学校におけるセキュリティポリシーの改定
  - 教育相談センター
    - ・不登校児童生徒の抱える背景と支援の実態についての調査・基礎研究
  - 特別支援教育センター
    - ・特別支援教育体制充実事業調査基礎研究

# 1 調査研究

## 1 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上、児童生徒の発達の支援に係る研究等を実践研究の中心に据えて取り組んでいる（別紙「研究体系図」参照）。

### ◇実践研究

■各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究

■児童生徒の発達の支援に係る研究

○長期研究員と研究員による研究会議

道徳、主体的・対話的で深い学び、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導、  
情報活用能力育成、特別支援教育、学校教育相談

○指導主事と研究員による研究会議

社会科、美術科、技術・家庭科、小学校外国語科、外国語科  
特別活動、健康教育、高校教育

○カウンセラー研究員による研究

■市内学校との教育の情報化推進を目的とした研究

### ◇調査・基礎研究

■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

○指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

### ◇施策研究

■教育施策等に係る研究

○習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究

○全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

### ◇共同研究

■各研究所等との共同研究

○指定都市教育研究所連盟

○神奈川県教育研究所連盟

・研究大会での研究報告

○関東地区教育研究所連盟

○全国教育研究所連盟

○都道府県指定都市教育センター所長協議会

## ◇実践研究

### 長期研究員・研究員による研究会議

児童生徒の道徳的価値の自覚を深める授業づくり  
—道徳科を要としたつながりのある道徳教育の充実をめざして—

(道徳研究会議)

本研究では、「道徳科を要とした他教科等との関連図」を作成して授業を展開すると、児童生徒の道徳的価値の自覚が深まり、教師の授業改善、児童生徒の道徳的価値に対する意識のつながりが感じられ、より道徳性に係る成長の様子を見とれると仮説を立てた。道徳科と道徳科、他教科等とのつながりを意識した授業展開と意図的・計画的な振り返りを行いながら、教師同士の共通理解と協力体制を確立していく視点で検証を行った。授業の構想段階で、前時までの授業や体験をどこで想起させるかを明確にし、発問や意図的な指名の計画を立てて授業を実践することによって、効果を実感できた。

<スタッフ> 関 真由美 (長期研究員) 奈良 沙織 (研究員) 本多 茂光 (研究員)  
古賀 勇樹 (研究員) 杉浦 光 (研究員)

「主体的・対話的で深い学び」を視点とした指導と評価の在り方  
—学びを自己調整する子を育てる形成的アセスメントを軸にした授業づくり—

(主体的・対話的で深い学び  
研究会議)

本研究会議では「教師が『主体的・対話的で深い学び』の視点で自らの授業を振り返り、ねらいを明らかにした授業づくりを行い、見取ったことを適切に子どもにフィードバックすることで、子どもは自らの学びを実感し自己調整しながら学ぶことができるのではないか」と仮説を立て、検証を行った。研究を通して、子どもが学びを振り返る視点や教師が授業を改善する視点が明らかになり、学びを自己調整する子どもの姿につながった。形成的アセスメントを軸にした授業づくりは「主体的・対話的で深い学び」を視点とした指導と評価の在り方を見直し、授業改善に有効にはたらいいた。

<スタッフ> 新田 瑞江 (長期研究員) 三觜 慎吾 (研究員)  
今 麻由子 (研究員) 鈴木 博 (研究員) 宮本 健太郎 (研究員)

粘り強く取り組む態度の醸成をめざして  
—「自分で考える」ことを大切にした授業実践から—

(習熟の程度に応じた  
きめ細やかな指導研究会議)

本研究では、習熟の程度のことを、「課題・問題に対して『解けなくても』『解けるまで』『解けたその先(へ)まで』粘り強く取り組む態度」と捉え、授業内の課題・問題提示後の児童生徒の活動場面に焦点を当て、「自分で考える」ことを大切にした授業実践を行い、「粘り強く取り組む態度」の醸成をめざした。文部科学省の「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージに示される「自ら学習を調整しようとする態度」と「粘り強く学習に取り組む態度」の2つの態度を関連付けて研究を進めた結果、児童生徒が自らの学習状況を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」のもと、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことにつながった。児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握しながら取り組むことで、充実感や達成感が生まれ、自己肯定感の向上に寄与した。

<スタッフ> 山崎 範雄 (長期研究員)  
酒井 朝美 (研究員) 中村 真紀 (研究員) 鈴木 翼 (研究員)  
佐藤しのぶ (研究員)

児童生徒の情報活用能力を発揮させる授業づくり  
—考えを表現し伝え合う学習場面におけるICT活用を通して—

(情報活用能力育成研究会議)

本研究では、未来に活躍する児童生徒に必要な資質・能力を、各教科等の単元を見通した学習活動で具体的に育成するために、ICT 活用を通して児童生徒の情報活用能力を発揮させる授業づくりに取り組んだ。検証授業から考察した結果、「発表や話し合い」や「協働での意見整理」といった考えを表現し伝え合う学習場面で児童生徒が ICT を活用して情報活用能力を発揮させることで、児童生徒同士の対話が焦点化され、各教科等の本時目標に迫ることができることが明らかとなった。また、児童生徒が ICT を活用することで、学習活動の効率が向上することも見えてきた。

<スタッフ> 岡田 智弘 (長期研究員)  
田村 露那 (研究員) 湯浅 哲雄 (研究員) 石川 友則 (研究員)  
大野 由希子 (研究員) 木原 貴史 (研究員)

「具体的な目標設定」による授業改善  
—自立活動の指導におけるPDCAの実践—

(特別支援教育研究会議)

本研究会議では、「具体的」な目標設定→授業→目標設定の際の視点で振り返り→改善という PDCA サイクルにより効果的な授業改善を行えるという仮説を立てて研究を進めた。①適切に人の注意を向ける方法(注意喚起) ②視覚的な情報の理解③声量のコントロールに関する実践を行い、授業の効果として3事例ともに授業で学んだことを日常生活でもいかせるようになった。授業改善が効果的であった理由として、目標を達成するための活動内容を設定したこと、客観的な評価と共有ができたこと、教員の支援を事前に検討して実行したこと、支援や目標を段階的に設定したことが挙げられる。

<スタッフ> 佐藤 大輔 (長期研究員)  
松野下 由衣 (研究員) 青田 豊樹 (研究員) 畠山 愛咲 (研究員)

川崎市における不登校の実態と支援に関する調査研究  
—小・中学校教員へのアンケートから課題を見出す—

(教育相談研究会議)

本研究では、多様化する不登校について考えるため、平成 30 年度新たに不登校になった児童生徒を対象として担任にアンケート調査を実施し、不登校になったきっかけのみで対応せず、継続した背景を考えた上で支援することの必要性を見出した。そして、不登校を未然防止するためのポイントとして、教員が児童生徒と長い時間を共にする授業の「授業力」を向上させること、また、初期対応として複数の教職員で話し合いを始める時期が早いほど登校につながる割合が高いデータが得られたことから、話し合いを始める時期は欠席が 3 日連続してからでは遅く、「支援は欠席 0 日から」と提言した。

<スタッフ> 間馬 雅子 (長期研究員)  
黒瀧 友絵 (研究員) 浅田 勇樹 (研究員) 千ヶ崎達也 (研究員)

## ◇カウンセラー研究員による研究

一人一人を大切に「チーム学校」の構築に向けて  
～校外連携のための校内連携体制づくり～

本研究では、「チーム学校」の実現のために校内体制を見直した。アンケート結果から、若手教員の育成、ミドルリーダーの活用、担任が一人で抱えない体制づくり等の課題を見出し、連携体制再構築のための実践を行った。チームを意識して生徒指導担当として動くことや、校内研修会の実施、スクールカウンセラーと養護教諭を交えた支援会議の立ち上げ等の実践を通して、不登校生徒の解消や生徒を理解した上での、一貫した方向性のある支援体制に繋がり、「チーム学校」の構築に向けて、校内連携体制づくりに取り組むことができた。

<スタッフ> 住吉 幸代 (カウンセラー研究員)

## ◇指導主事・研究員による研究会議

時代を大観し、自らの言葉で表現する歴史学習

(社会科指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では、新学習指導要領中学校社会科歴史的分野における「各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現」する学習の明示に伴い、具体的な手立てについて研究を進めた。「中世」「近世」といった中項目の範囲で歴史を大きくとらえ、その特色を生徒自らの言葉で表現できるようにするために、「生徒が語る〇〇(〇〇には『中世』等の言葉が入る)」「中項目における時代のターニングポイント」等を明らかにして大単元を構想した。検証授業では歴史的事象について様々な立場から考え、多面性を捉え、歴史的事象の意義を考え表現する活動を重視した学習を展開し、これらの手立ての成果と課題を明らかにした。

<スタッフ> 鵜木 朋和(指導主事) 中原 幸司(研究員) 壬生 俊介(研究員)  
穂谷 幸子(研究員) 水澤 雅之(研究員)

「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する  
指導の改善に向けた研究  
～心豊かな生活を創造する力の育成に向けて～

(美術科指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成するための指導の改善について研究を進めた。改善の視点として、中学校美術科の「知識」に位置付けられた〔共通事項〕の指導内容を、実感を伴って理解することができるように、具体的な手立てを図り検証授業を行った。検証授業では「造形的な見方・考え方」を働かせながら、より目的にあった形を構想したり、多様な見方や感じ方をしたりする姿が見られ、意識的に指導を改善していくことの重要性が明らかになった。

<スタッフ> 岩崎 知美(指導主事) 長澤 秀行(研究員) 川田 順子(研究員)  
柳田 みちる(研究員)

自ら安全・衛生を意識し、主体的に活動する生徒の育成  
ー安全・衛生ハンドブックを活用した授業づくりー

(技術・家庭科指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では、技術・家庭科の実践的・体験的な活動に生徒が安全に取り組むために、「安全・衛生ハンドブック」を作成し、それを活用した授業づくりについて研究を行った。具体的には、教師と生徒に実施した実態調査を基に課題を見だし、それを解決するための「安全・衛生ハンドブック」を作成し、活用方法について検討した。検証授業を行った結果、「安全・衛生ハンドブック」を教室環境の工夫のために掲示物などに活用したり、生徒への安全・衛生の意識づけのための資料に活用したりしていくことが、教師の授業改善や生徒の主体的な活動へつながることが明確となった。

<スタッフ> 望月 隆 (指導主事) 越 有里 (指導主事) 望月 克高 (研究員)  
山本 大輔 (研究員) 森本 静恵 (研究員) 鹿島 有莉沙 (研究員)

小学校外国語科における  
児童が意欲的に学習する動機付けになるための評価

(小学校外国語科指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では、新学習指導要領で始まる小学校高学年の外国語科において、児童が意欲的に学習し、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を身につけるための評価について、授業実践を通して探った。十分な言語活動を行ってから、児童と評価基準を共有し、テーマを決めたインタビューやスピーチなどのパフォーマンス評価を行うことで、児童は充実感を味わい、次に向けた意欲を高める結果となった。また、教師は個別に学習状況を見取ることで、よりよい指導につなげることができた。評価基準の言葉がどのような児童の具体の姿に当たるのかを学年内で研修していく必要性を感じた。

<スタッフ> 竹内 茜 (指導主事) 村田 暁 (研究員) 天田 梨那 (研究員)  
佐藤 博臣 (研究員) 坂野 幸恵 (研究員)

言語活動を通じた授業改善についての研究

(外国語科指導主事と  
研究員による研究会議)

新学習指導要領では、外国語科の目標を「言語活動」を通して実現することが求められている。本研究会議では、授業の中で実際に言語活動がどのように、どのくらいの時間実施されているかについて現状把握を行い、そこから言語活動を量的・質的に改善する方法について研究を進めた。検証授業では、良質な場面が設定されている教科書本文を利用した言語活動や、帯活動として1分間会話をする言語活動を繰り返し実施することで、言語活動の実施時間について改善が図られるとともに、生徒の表現に対する意欲の高まり、ターゲットセンテンス以外の表現を活用しようとする姿勢が見られた。

<スタッフ> 鬼頭 洋司 (指導主事) 駒田 孝 (研究員) 三井 勇樹 (研究員)  
田原 麻紀子 (研究員) 浦野 幹子 (研究員)

社会参画する意識を高める特別活動  
-自主的・実践的に取り組む学級活動の実践研究-

(特別活動指導主事と  
研究員による研究会議)

特別活動の中心となる「学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画」において、①学級活動の意義や育成を目指す資質・能力②学級活動の一連の学習過程③有効であった教材や指導助言を示すことにより、「学級・学校を自分たちで創る」という児童生徒の社会参画の意識を高めることを目指した。①学級会の議題の選定②学級会カードなどの活用③学級活動の積み重ねの在り方に着目し実践した。その結果、話し合いや実践の後に振り返りを行い、成果や課題を明確にして次の活動に取り組むことで、折り合いをつけた合意形成ができるようになり、社会参画の意識を高めることにつながった。

<スタッフ> 高橋 徹 (指導主事) 宮崎 里佳 (研究員) 下村 智英 (研究員)  
網谷 英大 (研究員) 小野 はるか (研究員)

心と体のつながりについて考える健康教育  
～自律神経のバランスに焦点を当てて～

(健康教育指導主事と  
研究員による研究会議)

保健の学習の内容を生かしながら、心と体のつながりには自律神経がかかわっていることや、自律神経のバランスを整えることが大切であること等について発達段階に応じた理解を促し、自分の心の状態と体の状態を総合的に捉えて適切な対処ができるようになることを目指した授業を検証した。自律神経を天秤に見立てた教材を用いて視覚的に示しながら、体調不良には様々な原因が重なり合っていることを伝え、その改善策について話し合うグループワークを取り入れた。子どもたちは主体的に意見を伝え合い、自分の体調を整えるためにできることを考え、その後の生活に生かす姿につながった。

<スタッフ> 築部 めぐみ (指導主事) 中村 茜 (研究員)  
榎 式子 (研究員) 山口 涼美 (研究員)

課題解決の力を育む総合的な探究の時間を狙って  
～豊かな課題設定を生み出す手立てについての考察～

(高校教育指導主事、総合的な探究の時間指導主事と研究員による研究会議)

高等学校における「総合的な探究の時間」は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、より探究的な活動を重視して自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見し、解決していくことが求められている。また「総合的な探究の時間」においては課題の発見も重視されており、質の高い探究的な学びを展開していく上で課題設定は重要な位置を占める。生徒の実態を踏まえつつ、より豊かな課題設定を生み出すために教師がとれる有効な手立てについて、市立高等学校5校における実践から抽出していった。課題設定に直接関係する本時に係る手立てはもちろんのこと、学級経営や単元全体に係る間接的な手立てが立体的に施されることにより、生徒は主体的に課題設定に向かうことがわかった。

<スタッフ> 山中 美奈子 (指導主事) 石井 芳宏 (指導主事)  
武内 洋平 (研究員) 長村 昇 (研究員) 富山 陽子 (研究員)  
布目 大 (研究員) 松本 智春 (研究員)

## ◇調査・基礎研究（指導主事研究）

校外研修（Off-JT）とOJTの有機的なつながりを目指して  
～ライフステージに応じた研修を中心とした研修の再構築～

（カリキュラムセンター  
指導主事研究）

様々な研修機会を活用して、教員一人一人が資質・能力を高め、学校の教育力を強化するために、校外研修（Off-JT）とOJTのつながりを重視した研修の在り方の研究を進めた。教員が主体的に学べるように、各研修で育成する資質・能力の明確化を図ったり、校内で学び続ける教員を目指した研修冊子を作成し配付したりした。また学校現場のOJTの取組の状況や課題等についての調査を実施し、実態を把握した。これらの取組を踏まえ、ライフステージ研修の再構築を図ることができた。さらに今後も継続して調査を行いながら、研修体系は改善し続ける必要があることが見えた。

<スタッフ> 伊藤 悦子      鶴木 朋和      松本 崇      永田 賢      石井 芳宏  
伊藤由佳子      岩崎 知美      望月 隆      越 有里      中野 正明  
竹内 茜      鬼頭 洋司      岡部 啓子      高橋 徹      山中美奈子  
半田真規子      福岡 弘行      築部めぐみ

## 2 研究報告

### （1）川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

令和元年度センター研究報告会は、令和2年1月29日（水）に当センター、ゆうゆう広場たかつ、高津市民館、高津小学校を会場に開催した。この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。21年度より、学校からより参加しやすい研究報告会にするため午後3時からの開催としており、長期研究員、指導主事、指導主事と研究員による研究の15分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行った。申込者、来賓合わせて1186名の方々に参加をいただき、各分科会で熱気あふれる研究報告会となった。また、指導助言者からは、それぞれの立場や専門的な視点からの指導助言をいただいた。

### （2）その他の研究発表【別紙2・3】

## 3 その他の研究事業

### ◇研究冊子等の作成

川崎市総合教育センター研究紀要 第33号（令和元年度版）

令和元年度に調査研究した内容の掲載

## 【別紙1】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

### (1) 指導主事研究※

研究名	研究主題	発表者
カリキュラムセンター 調査・基礎研究	校外研修 (Off-JT) と OJT の有機的なつながりを 目指して ～ライフステージに応じた研修を中心とした 研修の再構築～	指導主事 伊藤 由佳子

※今年度の指導主事研究については、神奈川県教育研究所連盟人材育成部会との共催。

報告会当日は指導主事研究報告前の 13 時 45 分から、埼玉県教育局市町村支援部 義務教育指導課 学力  
向上推進・学力調査担当 主任指導主事 中谷 樹 氏による講演「子どもの学力を伸ばしている効果的  
な指導方法を共有するための仕組みづくり」を行う。

### (2) 長期研究員 (◎) と研究員 (○) による研究

研究会議名	研究主題	発表者	講師
道徳 研究会議	児童生徒の道徳的価値の自覚を 深める授業づくり ～道徳科を要としたつながりの ある道徳教育の充実をめざして～	◎関 真由美○奈良 沙織 ○本多 茂光○古賀 勇樹 ○杉浦 光	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也
主体的・対話 的で深い学び 研究会議	「主体的・対話的で深い学び」を 視点とした指導と評価の在り方 ～学びを自己調整する子を育てる 形成的アセスメントを軸にした授 業づくり～	◎新田 瑞江○三觜 慎吾 ○今 麻由子○鈴木 博 ○宮本 健太郎	横浜国立大学 名誉教授 森本 信也
習熟の程度に 応じたきめ 細やかな指導 研究会議	粘り強く取り組む態度の醸成を めざして ～「自分で考える」ことを大切に した授業実践から～	◎山崎 範雄○酒井 朝美 ○中村 真紀○鈴木 翼 ○佐藤 しのぶ	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 水谷 尚人
情報活用能力 育成研究会議	児童生徒の情報活用能力を 発揮させる授業づくり ～考えを表現し伝え合う学習場面 における ICT 活用を通して～	◎岡田 智弘○田村 露那 ○湯浅 哲雄○石川 友則 ○大野 由希子 ○木原 貴史	横浜国立大学 教職大学院 教育学研究科高度教職実践 専攻長 教授 野中 陽一
特別支援教育 研究会議	「具体的な目標設定」による 授業改善 ～自立活動の指導における P D C A の実践～	◎佐藤 大輔○青田 豊樹 ○松野下 由衣 ○畠山 愛咲	横浜国立大学 教育学部 学校教育課程 特別支援教育 教授 関戸 英紀
教育相談 研究会議	川崎市における不登校の実態と 支援に関する調査研究 ～小・中学校教員へのアンケート から課題を見出す～	◎間馬 雅子○黒瀧 友絵 ○浅田 勇樹 ○千ヶ崎 達也	東海大学 文化社会学部 心理・社会学科 教授 芳川 玲子

(3) 指導主事 (◎) と研究員 (○) による研究

研究会議名	研究主題	発表者
社会科研究会議	時代を大観し、自らの言葉で表現する歴史学習	◎鶴木 朋和 ○中原 幸司 ○壬生 俊介 ○穂谷 幸子 ○水澤 雅之
美術科研究会議	「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する指導の改善に向けた研究 ～心豊かな生活を創造する力の育成に向けて～	◎岩崎 知美 ○長澤 秀行 ○川田 順子 ○柳田 みちる
技術・家庭科研究会議	自ら安全・衛生を意識し、主体的に活動する生徒の育成 ～安全・衛生ハンドブックを活用した授業づくり～	◎越 有里 ◎望月 隆 ○望月 克高 ○山本 大輔 ○森本 静恵 ○鹿島 有莉沙
小学校外国語科研究会議	小学校外国語科における児童が意欲的に学習する動機付けになるための評価	◎竹内 茜 ○村田 暁 ○天田 梨那 ○佐藤 博臣 ○坂野 幸恵
外国語科研究会議	言語活動を通じた授業改善についての研究	◎鬼頭 洋司 ○駒田 孝 ○三井 勇樹 ○田原 麻紀子 ○浦野 幹子
特別活動研究会議	社会参画する意識を高める特別活動 ～自主的・実践的に取り組む学級活動の実践研究～	◎高橋 徹 ○宮崎 里佳 ○下村 智英 ○網谷 英大 ○小野 はるか
健康教育研究会議	心と体のつながりについて考える健康教育 ～自律神経のバランスに焦点を当てて～	◎築部 めぐみ ○中村 茜 ○榎 式子 ○山口 涼美
高校教育研究会議	課題解決の力を育む総合的な探究の時間を 目指して～豊かな課題設定を生み出す手立てについての考察～	◎山中 美奈子 ◎石井 芳宏 ○武内 洋平 ○長村 昇 ○富山 洋子 ○布目 大 ○松本 智春

(4) 横浜国大教職大学院派遣教諭による報告

研究名	研究主題	発表者
横浜国立大学 教職大学院派遣教諭による研究報告	2年目教員に起こるリアリティショックへの対処法 ～メンターチームを活用して行う研修制度・職場内カウンセリング～	平成30年度 横浜国立大学 教職大学院派遣教諭 宮内小学校 森 綾乃

【別紙2】 令和元年度 神奈川県教育研究所連盟 第66回 教育研究発表大会

- 1 担当機関 厚木市教育研究所 大和市教育研究所 海老名市教育研究所  
座間市教育研究所 綾瀬市教育研究所 愛川町教育研究センター
- 2 大会テーマ 「未来を拓く・創る・生きる」力を育む
- 3 期 日 令和元年11月14日(木)
- 4 参加者 神奈川県教育研究所連盟加盟機関(25機関、全体会312名、分科会369名)
- 5 会 場 県立総合教育センター(善行庁舎)
- 6 日 程

○ 全体会

受付	9:30～ 10:00	記念講演等 演題 「不登校対応のこれまでとこれから」 講師 小熊 広宣 氏	10:00～12:00
----	----------------	---	-------------

○ 分科会(11会場 発表33本)

受付	13:15～13:30	発表① 13:35～14:25 発表② 14:35～15:25	発表③ 15:35～16:25
----	-------------	------------------------------------	-----------------

○ 記念講演概要

近年、不登校は増加傾向にあり、神奈川県では、児童生徒1000人あたり19.2人が不登校。数としては全国で2番目、割合としては全国7番目。「数字が高い(多い)=悪い」と考えないのが重要として、文部科学省より出た新しい通知について以下のような話があった。

「不登校児童生徒への支援の在り方について」(2019年10月25日)

⇒不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。

「不登校支援の今に書かれていること」【学校教育の意義・役割】

- ・本人の希望を尊重すること。
- ・教育支援センター、不登校特例校、ICTを活用した学習支援、フリースクール、中学校夜間学級での受け入れなど、様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行うこと。  
その際、フリースクールなどの民間施設やNPO等と積極的に連携し、相互に協力・補完すること。

7 分科会 川崎市発表者

NO	発表テーマ	長期研究員
第3	「粘り強く取り組む態度」の醸成をめざして ～「自分で考える」ことを手助けする手立てに関する一考察～	山崎 範雄
第5	教科等横断的な視点で育てる情報活用能力の研究 ～情報を関連付ける学習活動を通して～	岡田 智弘
第7	川崎市における不登校の実態と支援に関する調査研究 ～小・中学校教員へのアンケートから課題を見出す～	間馬 雅子
第8	具体的な目標設定による授業改善 ～カリキュラム・マネジメントの出発点としてのPDCA～	佐藤 大輔
第9	「主体的・対話的で深い学び」を視点とした指導と評価の在り方 ～学びを自己調整する子を育てる形成的アセスメントを軸にした授業づくり～	新田 瑞江
第10	児童生徒の道徳的価値の自覚を深める授業づくり ～道徳科を要としたつながりのある道徳教育の充実をめざして～	関 真由美

### 【別紙3】令和元年度神奈川県教育研究所連盟研究協議会「人材育成部会」報告

1 担当機関 川崎市総合教育センター

2 開催日・会場・参加者 令和2年1月29日(水)・川崎市高津市民館・15機関 35名

3 内容 講演・実践報告

(1) 講演 「子どもの学力を伸ばしている効果的な指導方法を共有するための仕組づくり」

講師：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 学力向上推進・学力調査担当  
主任指導主事 中谷 樹 氏

#### <概要>

埼玉県では「子どもの学力を伸ばしている効果的な指導方法を共有する」ため、埼玉県学力・学習状況調査を起点とした諸々の取組を連動させる仕組みをつくっている。この仕組みにより学校が前向きに取り組み、子どもの学力が伸びることを目指している。調査結果を正答率の高い低いで相対的に見るのではなく、一人ひとりの子どもの伸びを評価するという視点で、教科の調査結果と児童生徒質問紙によって得られた学習方略（学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動）をデータ化して関連付け、整理、分析している。そして、伸び率が高い学校や指導者個人への調査等を通して、良い取組を拾い上げ共有している。具体的には良い授業の動画を配信したり、個を伸ばしている指導者を集めてさらに良い取組の共有を図る協議会を開催したりして、そこで得られた知見をリーフレットにまとめて県全体に還元している。本取組は、埼玉県教育行政の重点であり、それが組織の規模や予算面からもうかがえる特徴ある取組である。

#### <質疑>

- ・ 職員の経年変化を見て、伸び率等を確認することがあるのか  
→ 職員の名前を書いた結果帳票はないが特定はできる。しかし、それはしていない。これを人事評価的に取り扱わないようにしている
- ・ 調査結果等を学校に返したときにどれくらい活用しているのか。またその工夫をしているのか。  
→ リーフレットを配付しているが効果が小さい。今後、どのように広めるか課題である
- ・ 学力の伸ばした先生の共通点はあるか  
→ 共通しているのは、何か一つの教科等の専門性ではなく、教育愛であると感じている

(2) 実践報告 「校外研修 (Off-JT) と OJT の有機的なつながりを目指して

～ライフステージに応じた研修を中心とした研修の再構築～

報告者：川崎市総合教育センター カリキュラムセンター指導主事 伊藤 由佳子

#### <概要>

川崎市では、従来から教員が学び合う校内研修や授業研究を継続的、計画的に行い、校内の管理職、先輩や同僚からの支援やフィードバックを受けながら、教職員の一人一人がその資質・能力の向上に努め、ライフステージに応じた必修研修（ステージⅠ＝初任者～3年目、ステージⅡ＝2校目異動者～15年目経験者、ステージⅢ＝新任総括教諭～教頭）を中心とした校外研修 (Off-JT) においても、研修で学んだ内容を学校での実践に活用する等、一定の効果を上げている。

しかし、教員の多忙化や若年齢化など今日的な状況の中でうまく機能していない部分もある。そこで、川崎市教員育成指標に基づき、校外研修 (Off-JT) の再構築を図り、校外研修 (Off-JT) と OJT のつながりを重視しながら研修の在り方を見直した。平成30年度には、各研修で育成する資質・能力について整理し、校外研修 (Off-JT) と OJT をより関連させながら、研修冊子の作成等に取り組んだ。令和元年度は平成30年度の取組を基に、学校現場の OJT の取組の状況や OJT を進める上での課題等について調査し、具体的な手立てを探り、取り組んだ。

5 主な感想・意見等

多忙化の中で研修をどのように精選していき、特に増加している若い教員に対してどう効果的に実施していくかなど、どこも同じ問題を抱えていることが共有できた。その中で OJT と Off-JT を関連付けて考えていく必要性を改めて参加者同士で確認することができた。

## 2 教育関係教職員研修

### 1 必修研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
801	新規採用教員研修	高橋	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修                      (2) 情報教育、情報機器の活用法、情報モラル・指導主事（総合教育センター）                      (3) 児童・生徒指導、学級経営について・芹澤成司（総合教育センター元所長）                      (4) 安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社                      (5) 学習指導についての講義演習・指導主事（総合教育センター）                      (6) 学習指導 理科指導における講義演習[小]教科別指導[中・高・特]・指導主事（総合教育センター）                      (7) 宿泊研修に関わるオリエンテーション 指導主事（総合教育センター）                      (8)～(15) 宿泊研修、指導主事（総合教育センター）                      (16) 特別支援教育の現状と理解について・指導主事（総合教育センター）                      (17) 教育相談について・指導主事（総合教育センター）                      (18) (19) 児童生徒指導、学級経営について・指導主事（各区教育担当）                      (20)～(22) 初任者授業研究・指導主事等（総合教育センター）                      (23)～(26) [小]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち4回の授業参観と研究協議[中・高・特]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議・指導主事（総合教育センター）                      (27) 人権に関する講義・大野恵美（人権・共生教育担当）                      (28) 研修のまとめ、講義・指導主事（総合教育センター）</p>	新規採用教員	勤務校外研修年間28回 4/2～1/23	8,484
802	新規採用養護教員研修	築部	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導・築部めぐみ（総合教育センター指導主事）                      (2) 健康教育の授業研究に向けて指導案検討・築部めぐみ（総合教育センター指導主事）                      (3) 健康教育の実際、学校での授業研究・築部めぐみ（総合教育センター指導主事）                      (4) 小学校における保健室経営と健康教育の実際・一戸かおる（京町小学校）                      (5) 中学校における保健室経営と健康教育の実際・工藤晶子（柿生中学校）                      (6) 保健室経営案と学校保健計画の立案、養護教諭の活動と評価・築部めぐみ（総合教育センター指導主事）</p>	新規養護教諭	7/8 8/29 9/30 10/4 10/28 12/15	60
803	新規採用学校栄養職員研修	越	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 本市の学校給食の概要・鈴木尚子（健康給食推進室）                      (2) 給食試食会について（健康給食推進室）                      (3) 食に関する指導Ⅰ（健康給食推進室）                      (4) 食に関する指導Ⅱ（健康給食推進室）                      (5) 食に関する指導Ⅲ（健康給食推進室）                      (6) 食に関する指導Ⅳ（健康給食推進室）</p>	新規学校栄養職員	4/8 6/4 6/18 8/20 8/27 11/19	4
804	2年目教員研修	鬼頭	<p>■ 授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。</p> <p>(1) ・ガイダンス・事前資料のポイントの説明：道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動：指導主事（総合教育センター）・班別協議（1年目、2年目前半を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班テーマの設定と授業づくり）                      (2) 班別授業研究（公開授業及び研究協議、新たな自己課題の設定）</p>	2年目教員（全校種）	8/22 2/4 (2/6)	591
805	3年目教員研修	伊藤悦	<p>■ 教科の目標と内容の理解を深めるとともに、自己の課題を一層明確にして授業改善を図り授業力を高めるとともに、教員として学び続ける態度を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンスと班別協議（2年目までの成果と課題、班で共有の視点の設定）                      (2) 班別授業研究（公開授業・研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定）</p>	3年目（全校種）教職員	5/30 (6/4) 1/14 (1/22)	584
806	2校目異動者研修	鵜木	<p>■ 新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。</p> <p>(1) 開校式・勤務規律（講師：教職員課 担当課長）・メンタルヘルス・研修ガイダンス・人権尊重教育研修（講師：人権・共生教育 担当課長）                      (2) 学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う～今までの自分を振り返り、これからの自分を考えよう～                      (3) グループ協議：レポート内容の交流・新たな課題の設定・個人の課題の深化</p>	2校目異動者（全校種）教職員	6/3 7/22 12/24	605

807	中堅教諭等資質向上研修	望月	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1)開講式・教職員服務規律研修・研修ガイダンス・実践力を高める研修①  (2)総合教育センター希望研修・共催研修の受講（総合教育センター等）  (3) (4)異校種交流研修（各学校）  (5)教育課題研修①：キャリア在り方生き方教育・特別支援教育指導主事（総合教育センター）  (6)課題研究①（経過報告とグループ協議）：指導主事（総合教育センター）  (7)教育課題研修②（人権尊重教育にかかわる研修）：指導主事（総合教育センター）  (8)実践力を高める研修②（OJTに関する研修）：指導主事（総合教育センター）  (9)児童生徒指導研修（演習・班別研修）：指導主事（総合教育センター）  教育課題研修③（優秀教員講演）  (10)授業研究②（授業研究の報告とグループ協議）：指導主事（総合教育センター）  課題研究②（課題研究の報告とグループ協議）・閉講式：指導主事（総合教育センター）</p>	10年経験（全校種）	5/7.21 7/29 7/30 7/31 7/10	希望研修の受講5～12月の1日 異校種交流研修7～12月の1日	2,580
808	15年経験者研修	山中	<p>■ 中堅教員としての企画力、運営力の向上を図り、校内におけるリーダー性を育成する。また、人権尊重についても研修を行う。</p> <p>(1)開講式、服務規律研修・市職員(教職員課)、 「今、ミドルリーダーに求められるものとは？」・白井達夫(横浜国立大学)  (2)「人権尊重教育について」・大野 恵美(総務部人権・共生教育担当 担当課長)  班別協議「各自の取組実践の成果と報告」、閉講式、代表者による「実践報告」</p>	全校種教職員	4/26 12/25		226
809	新任総括教諭研修	中野	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る</p> <p>(1)新任総括教諭の位置づけ、これからの総括教諭に期待すること・西田寛(教職員課担当課長)、児玉暢也(四谷小校長)、井上総一郎(大師中校長)  (2)総括教諭として実践したこと、企業派遣研修報告</p>	新任総括教諭	4/25 12/19		195
810	新任教頭研修	永田	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1)実務研修「休暇制度について」・市職員(教職員人事課)／「帰国・外国人児童、生徒教育について」・市職員(総合教育センター)／「計画配置パソコン研修」・市職員(庶務課、教職員人事課)  (2)実務研修「教育の情報化、学校のICT機器について、著作権・個人情報・セキュリティ、校務用PCとAロッキー、ID管理システム、スマートアンケート」・市職員(総合教育センター)／講演「新任教頭に期待する」・小松典子(総合教育センター所長)  (3)実務研修「教育予算」「教育活動サポーター配置事業」「特別支援教育サポート事業」「財務事務」「勤務時間制度」「職場におけるメンタルヘルスケア」・市職員(教育委員会庶務課、指導課、学事課、企画課、給与厚生課)  (4)グループ討議「分散会による班別討議」・市立学校長</p>	全校種新任教頭	4/9 4/16 5/9 7/17		160
811	教頭研修	石井	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1)メンタルヘルス：室木純一(給与厚生課)、勤務時間の割り振りについて：佐藤忠光(教職員企画課)、講演「学校づくりにおける副校長・教頭の役割とは」：芹澤成司(玉川大学)、小松典子(総合教育センター)  (2)分散会ー1「法規演習」：市職員(教育委員会教職員課)  (3)分散会ー2「課題研修」：市立学校長(市立学校)  (4)講話「川崎市の差別のない人権尊重のまちづくり条例について」：大西哲史(市民文化局)大野恵美(人権・共生教育担当)、講演「これからの学びを創る教師と学校」：田村学(國學院大學)</p>	教頭副校長	6/11 8/5 11/26 1/7		688
812	新任校長研修	伊藤由	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1)講話 総合教育センター所長  講演「学校経営と校長の役割」安部 賢一(西中原中学校長)  「職場におけるメンタルヘルス」  市職員(給与厚生課)  (2)実務研修「教職員の人事」他・市職員(教職員人事課)  (3)講話「学校事故と法的責任」・市職員学校法律相談担当弁護士(総務部庶務課)  講演「人権オンブズパーソン制度について」・川崎市代表人権オンブズパーソン  (4)「安心・安全な学校を実現する情報管理と管理職としての著作権」(総合教育センター情報・視聴覚センター 指導主事)  班別討議：「学校運営の現状と課題」・市職員(学校教育部)</p>	新任校長	4/9 4/25 7/24		112

813	校長研修	岡部	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 講演「地域とともにある学校づくりをめざして」 志々田 まなみ (国立教育政策研究所 統括研究官) 竹原 和泉 (NPO法人 まちとみらいの学校)</p> <p>(2) 講演「学校運営に関するリスクマネジメント2019」 ～スクール・コンプライアンスの視点から～ 坂田 仰 (日本女子大学教職教育開発センター教授)</p> <p>講話「メンタルヘルス」給与厚生課精神保健相談員</p> <p>(3) 講演「新学習指導要領を踏まえた学校づくり」 角屋 重樹 (日本体育大学大学院教育学 教授)</p> <p>講話「人権尊重教育の推進について」(人権・共生教育担当担当課長)</p>	全校種 校長	6/24 8/30 1/21	500
814	小学校夏季体育実技講習会	中野	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 器械運動 (跳び箱運動)、ゲーム① (ベースボール型)、表現運動 (リズムフォークダンス)、ゲーム② (ゴール型: サッカー)・市立学校教諭</p> <p>(2) 陸上運動 (高跳び・幅跳び)、体づくり運動 (多様な動き・体力を高める)、器械運動 (鉄棒運動)、保健 (4・6年生)・市立学校教諭</p>	小学校 教諭・新規採用 5年未 満教諭	7/25 7/26	478
815	中学校夏季体育実技研修会	中野	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 体づくり運動、剣道、水泳、バスケットボール・市立学校教諭</p> <p>(2) ダンス、バレーボール、器械運動、保健・市立学校教諭</p>	中学校 保健体 育科教 諭	8/19 8/20	445
816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	中野	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る。</p> <p>(1) オリエンテーション、講義、リズム水泳、低学年の指導法 (水慣れ、水遊び、水にもぐる、浮く)、中学年の指導法① (いろいろな浮き方、伏し浮き、浮く進む感覚づくり、けのび)、中学年の指導法② (呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→面かぶりクロール)、中学年の指導法③ (呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→かえる足泳ぎ)・市立学校教諭</p> <p>(2) 講義、ウォームアップ (アクアビクス)、高学年の指導法① (クロール、平泳ぎの泳法指導ポイント→続けて長く泳ぐために)、高学年の指導法② (長く泳ぐための課題をもった学習→ゲーム、距離・競争、ストローク数)、3泳法泳力向上タイム (3泳法選択: クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)、10分間泳法・クールダウン&amp;ヒーリングタイム・市立学校教諭</p>	採用5年 未満教 員	7/23 7/24	309
817	小学校音楽科実技研修	伊藤 由	<p>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 歌唱実技及び指導法・金子やちよ (前小学校音楽教育研究会会長)</p> <p>(2) 器楽実技及び指導法・リコーダー指導者・尾形 誠 (音楽教育推進協議会講師) ・鍵盤ハーモニカ指導者・吉森 祐也 (音楽教育推進協議会講師) ・打楽器指導者・大嶽實穂 (パーカッションリスト)</p>	小学校 新規採 用5年未 満教諭	8/8	167
818	中学校数学科初任者教員指導力向上研修	松本	<p>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 中学校数学科の教師として・前田高幸 (元校長)</p> <p>(2) 数学科の授業づくり・二瓶哲哉 (菅生中)</p> <p>(3) (4) 学習指導要領 学習評価の理解・下田照雄 (元校長)</p> <p>(5) 中学校数学科授業づくり・鈴木誠 (東京学芸大学附属世田谷中学校教諭)</p> <p>(6) 小学校算数科授業づくり・盛山隆雄 (筑波大学附属小学校)</p> <p>(7) 授業研指導案検討・松本崇 (総合教育センター指導主事)・3年目数学科教員</p>	中学校 数学科 初任者	7/22 7/23 12/25	65
819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	永田	<p>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 授業力向上①「資質・能力を育む授業づくり」国士館大学教授 小野瀬倫也氏 観察実験研修①「おもしろ科学実験2019」市内CST、中学校理科観察実験推進委員会</p> <p>(2) 観察実験研修②「粒子領域が好きになる」総合教育センター指導主事 臨地研修①「多摩川がさがさ探検」多摩川塾塾長 中本賢氏、市内教員</p> <p>(3) 観察実験実習③「エネルギー領域が好きになる」総合教育センター指導主事 授業力向上②「教科書の不思議」元市内中学校教諭 福山昇宏氏</p> <p>(4) 臨地研修②「川崎の先端科学技術」 講演「身の回りの不思議さや科学に関する偉人の偉業に感動～視野を広くに、自らを高めよう」東京理科大学栄誉教授 藤嶋昭氏 講義「科学への興味を高めるために」KISTEC光触媒グループ主任研究員 落合剛氏</p> <p>(5) 臨地研修③「おもしろ玉手箱、有孔虫観察等」かわさき宙と緑の科学館 指導主事、職員、アトム工房</p>	中学校 初任者 理科	7/22 7/23 7/25 11/1 12/25	67
820	新任教務主任研修	伊藤 悦	<p>■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。</p> <p>(1) 講話「新任教務主任への期待」・中村邦彦 (稗原小学校校長) 演習「公簿類の取扱」連絡・望月隆 (総合教育センター指導主事) 説明「校務支援システム」草柳讓治 (総合教育センター指導主事)</p> <p>(2) 演習「教育法規の運用と解釈」・滝口太志 (教育委員会教職員人事課) 講話と質疑応答「教務主任の実務」小林志乃 (高津小) 齋藤宗則 (久地小) 岩本和人 (野川小) 高橋秀和 (稲田小) 朝日理恵 (長沢小) 小松良平 (東高津中) 高橋一哲 (稲田中) 山本拓洋 (西高津中)</p> <p>(3) 「プログラミング教育」「教育の情報化」「学校ホームページ」 「情報モラルおよび情報セキュリティ」「校務支援システム」 草柳讓治・椎名美由紀・和田俊雄 (総合教育センター指導主事)</p> <p>(4) グループ演習「学校組織マネジメント」 小学校: 白井達夫 (横浜国立大学非常勤講師) 中学校・高等学校・特別支援学校: 前田博明 (認定NPO法人教育活動総合サポートセンター理事長)</p>	新任教 務主任	4/26 5/22 7/9 9/2	150

821	養護教員研修	築部	<p>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。</p> <p>(1)「心肺蘇生法実技」・木高浄文(日本赤十字社神奈川県支部)(地区ごとに2回に分けて実施)</p> <p>(2)「学校における感染症対策の在り方」・多屋馨子(国立感染症研究所感染症疫学センター室長)</p>	養護教諭	5/21 5/29 8/30	421
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	築部	<p>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</p> <p>(1)「学校プールの水質管理について」・福嶋仁(川崎市立学校薬剤師)</p> <p>「学校プール安全管理上の留意事項について」・中野正明(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)心肺蘇生法・木高浄文(日本赤十字社神奈川県支部)</p>	全校種 教職員	4/22 5/13	327
823	小学校外国語(英語)教育中核教員研修	竹内	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得させ、授業力及び英語を使つての指導力を高めるとともに、外国語教育推進のリーダーとして各校内の中心的役割を果たす教員を育成する。</p> <p>(1)オリエンテーション・英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(2)英語教育推進リーダーによる研修・講演 太田 洋(東京家政大学教授)</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修・英語演習 株式会社イーオン講師</p> <p>(5)英語教育推進リーダーによる研修・英語演習 株式会社イーオン講師</p> <p>(6)英語教育推進リーダーによる研修</p>	小学校 外国語 (英語) 教育中 核教員	1/4 4/19 7/22 7/23	665
824	中学校外国語(英語)教育指導力向上研修	鬼頭	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得させ、授業力及び英語を使つての指導力を高める。</p> <p>(1)オリエンテーション・英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(2)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(5)英語教育推進リーダーによる研修</p>	中学校 英語科 教員	2/20 6/18 7/25 8/5 8/5	162
825	小学校英語強化教員(ERT)	竹内	<p>■ 小学校英語強化教員として各小学校の支援の必要な知識と技能を確認し、共通理解を図る。</p> <p>(1)オリエンテーション・講演 太田 洋(東京家政大学教授)・新学習指導要領の理解・英語教育推進リーダーによる研修①</p> <p>(2)基礎研修・デジタル教材を使った実務研修・英語教育推進リーダーによる研修②</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる研修・英語演習 株式会社イーオン講師</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修・英語演習 株式会社イーオン講師</p> <p>(5)これまでの振り返りと情報交換・Small Talk インタラクティブ講師・デジタル教材を使った実務研修</p>	ERT	4/8 4/9 8/6 3/26	69
826	小学校外国語教育推進担当者(CET)	竹内	<p>■ 新学習指導要領の実施に向け、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(1)GET研修について・新学習指導要領移行期間における小学校外国語教育について・情報交換</p> <p>(2)新学習指導要領における小学校外国語教育について・情報交換</p> <p>(3)新学習指導要領における小学校外国語教育について・校内研修について</p> <p>(4)英語教育改革の動向について・小中連携/小中連携会議・高等学校ALT配置日程調整会議</p>	CET各 校1名	4/15 7/12 10/25 (2/28)	325
827	市内学校理科主任研修会	永田	<p>■新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること、及び、新学習指導要領を実施するために必要な理科室の経営等について研修するとともに、サイズ、回覧板を活用した校内での情報共有の方法を学ぶ。また、子どもたちの理科への興味・関心を高めるために、教師自身が学び続けることの大切さや伝えるための工夫について学び、理科の授業力向上につなげる。</p> <p>全体研修①・理科室の不要廃棄試薬品、薬品管理簿等について</p> <p>・センター理科室の備品、消耗品の貸し出しについて</p> <p>・S A I N S - W e b「理科教育」の回覧板について</p> <p>・放射線教育について</p> <p>・新学習指導要領について(評価、指導事例、移行や新規の内容にかかわる教材(小学校プログラミング教材)等) 総合教育センター指導主事</p> <p>全体研修② 講演「月のはなし ～月と地球のビミョーな関係～」</p> <p>大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 教授 寺田 健太郎氏</p>	市内全 校種理 科主任	1/22	163
828	小・中学校合同道徳教育研修	岡部	<p>■ 講演会、授業公開を実施し道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。</p> <p>(1)第1回「特別の教科 道徳」の基本的理解と授業づくり 小学校道徳研究会 長期研究員</p> <p>(2)第2回 下平間小学校 西有馬小学校 菅小学校 平中学校</p>	小・中 学校教 員	7/3 7/24 11/6 11/20 1/27	748

829	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	望月	<p>■ 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度を高くめるキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質向上を図る。</p> <p>第1回 ① 研修報告（進路指導研究協議全国大会） ② 情報伝達（キャリアパスポートについて）等 ③ 情報交換（各学校における全体計画について）</p> <p>第2回 ① 実践報告 令和元年度キャリア在り方生き方教育推進校 久本小学校・南生田中学校 ② 事務連絡 キャリアパスポートの取組について ③ 講演 「キャリア教育の要としての特別活動 ～キャリア・パスポートの実践に向けて～」 講師：橋谷 由紀（日本体育大学児童スポーツ教育学部 教授）</p>	小・中・高校教職員	9/10 1/30	399
831	教育相談宿泊研修	山田	<p>■ 体験を通して教育相談的な見方や考え方を学び、教師としての人間性を高める。</p> <p>(1) 開講式・班別研修(セッション1～2) (2) 班別研修(セッション3～4)・閉講式</p>	全校種教職員	8/8 8/8 8/9 8/9	168
832	特別支援学級等新担任者研修	中村	<p>■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。</p> <p>(1) 開講式 「川崎市の特別支援教育の概要」中村めぐみ(総合教育センター指導主事) (2) 「教育課程とサポートノート作成について」中村めぐみ(総合教育センター指導主事) (3) 班別研修「市内小中学校の特別支援学級の見学」(市立小・中学校) (4)(5) 「障害種別に応じた指導の在り方」霜田浩信(群馬大学) (6) 「授業づくりと具体的な指導について」前田三枝(小杉.小) (7) 授業研究会参加(市立小・中学校) (8) 「保護者対応・学級運営」中村めぐみ(総合教育センター指導主事)</p>	特別支援学級等の新任者	4/12 4/23 6/26 7/25 8/23 9/25 9～1月	964
833	特別支援学級等新担任者2年目研修	中村	<p>■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修</p> <p>(1) 開講式 班別研修レポート発表 センターの機能教員(特別支援学校)・指導主事(特別支援教育センター) (2) 班別研修レポート発表 センターの機能教員(特別支援学校)・指導主事(特別支援教育センター) (3) 授業研究会(市内小・中学校) 指導主事(特別支援教育センター)</p>	小・中・特別支援学級等2年目の担任	6/13 7/9 9/19	240
834	特別支援教育コーディネーター養成研修	藤田	<p>■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。</p> <p>(1) 「00の役割と発達障害の基礎知識」盛光秀之(総合教育センター指導主事) (2) 「自閉症・ADHDの理解と対応」霜田浩信(群馬大学教育学部教授) (3) 「アセスメントの理解」鹿島理子(特別支援教育センター) (4) 「ワークショップ形式で個別指導計画の作成」(通級指導教室センター的機能担当者) (5) 「教育相談の基礎知識」高橋あつ子(早稲田大学大学院教授) (6) 「学びのユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」(同上)</p>	小・中・高・特別支援学校の初めでの特別支援教育コーディネーター	5/15 5/30 8/2 8/5(AP) 8/6(AP)	286
835	通級指導教室新担当者等研修	近藤	<p>■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修</p> <p>(1) 「通級指導教室の指導について」鹿島理子(総合教育センター) (2) 「情緒の指導」東住吉小・久本小(情緒) 通級指導教室担当 (3) 「聴こえの指導」豊学校 通級指導教室担当 (4) 「言語の指導」久本小・宮前平小(言語) 通級指導教室担当 (5) 「思春期の特性・中学校通級の指導」近藤 春樹(総合教育センター)、御幸中通級指導教室担当 (6) 「事例に基づく協議及び指導助言」東住吉小・久本小(情緒)、久本小・宮前平小(言語)、御幸中 通級指導教室担当</p>	通級指導教室を初めて担任する教員等	4/12 4/23 5/14 5/21 5/30 9/4	136
836	児童支援コーディネーター研修	山田	<p>■ 児童支援コーディネーターとして必要な知識や技術を習得する。</p> <p>(1) 特別支援教育センター・教育相談センターとの連携 指導主事 (2) チーム支援推進のための事例検討会 芳川玲子(総合教育センター専門員) (3) キレる子の理解と対応 指導主事 (4) いじめの理解と対応 指導主事 (6) 取り出し指導の意義と進め方 指導主事 (7) 教員のための精神医学 山登敬之(教育相談センター外来教育専門医)</p>	児童支援コーディネーター	5/24 7/31 8/2 9/20 10/23 2/7	349
837	帰国・外国人児童生徒教育担当者研修	福岡	<p>■ 帰国・外国人児童生徒に対する受入および日本語指導の新たな体制づくりを推進ため、川崎市の帰国・外国人児童生徒の実態や受入の流れ、日本語指導の内容や方法について研修する。</p> <p>(1) 日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別的教育課程」編成・実践について～外国人児童生徒への日本語指導の推進と体制整備～ 指導主事(総合教育センター) ・講話「日本語を学ぶこと 日本語で学ぶこと」 :菅原 雅枝(東京学芸大学 准教授)</p>	小・中・特別支援学校帰国・外国人児童生徒担当者	6/11	112
838	不登校対策	松田	不登校の現状を理解し、不登校、長期欠席の未然防止、早期対応の支援策を学ぶ。	児童支援コーディネーター、生徒指導担当等	6/18 1/21	340
839	特別支援学校採用3年目教員研修	宮川	特別支援学校採用3年目の教員として、今後のキャリアを見据えて支援・指導を振り返る。	特別支援学校採用3年目教員	6/25 7/22 8/23 2/11	120

## 2 ICT活用

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
101	タブレットPCを活用した授業づくり	椎名・和田	タブレットPCと無線LANの接続 タブレットPCの機能及び活用方法の習得 タブレットPC活用の実践事例の紹介 タブレットPCを活用した授業づくり	全校種 教職員	8/7	28
102	小学校段階におけるプログラミング授業づくり	草柳	小学校の授業場面で活用できるプログラミングソフトの体験及び操作方法の習得 実際の授業場面を考えたの活用法ワークショップ	全校種 教職員	8/8	21
103	プログラミング教育の教材を考えよう	岸本	小学校から高等学校までのプログラミング教育の概要の説明 実際のプログラミング教育で活用する教材の紹介および体験 プログラミング教材の授業活用場面の紹介及び授業計画	全校種 教職員	8/9	28
104	小学校情報教育研究会との共催研修	草柳	ICTや思考ツール等の技能の習得 ICTや思考ツール等を活用した授業づくりワークショップ	全校種 教職員	7/29	58
105	情報セキュリティ及び情報モラル教育	和田	これからの情報社会に考えられる光と影 学校で教職員が取り組むべき情報セキュリティ 情報モラル教育の現状 情報モラル教育の授業づくり実践ワークショップ	全校種 教職員	8/6	20
106	学校のホームページを更新しよう	和田	学校・研究会ホームページの意義・役割や個人情報保護や著作権など学校・研究(部)会のホームページを作成・更新するときの留意点についての確認 実際に学校・研究(部)会等のホームページの更新 インストラクターへの質問を通した、ホームページの更新作業	全校種 教職員	7/31	18

## 3 授業力向上研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
201	国語科教育	伊藤悦	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。(共催研修)</p> <p>(1)学びの主体を子どもにおいた授業づくり・中村和弘(東京学芸大学准教授)</p> <p>(2)授業づくり演習 小学校常任委員/中澤英之(南菅中)</p> <p>(3)書写実技研修会 小学校常任委員</p>	全校種 教職員	7/24 7/29	298
202	社会科教育	鵜木	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1)授業改善研修会 中学校研究会常任委員(中学校向け)</p> <p>(2)県内臨地研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け)</p> <p>(3)小学校授業づくり研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け)</p> <p>(4)川崎港見学研修</p> <p>(5)社会科ベーシック研修</p>	全校種 教職員	6/11 7/26 7/29 8/8 8/9	403
203	算数・数学科教育	松本	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)中学校数学科授業づくりの基本 鈴木誠(東京学芸大学附属世田谷中学校)</p> <p>(2)小学校算数科授業づくりの基本 盛山隆雄(筑波大学附属小学校)</p>	全校種 教職員	7/24 8/16	95
204	理科教育	永田	<p>■ 授業研究や児童・生徒役として受ける研修、科学館や生田緑地での臨地研修を通して、子どもたちが主体的・対話的に学ぶためにはどのような手立てが必要なのか、教材・教具の工夫、導入・展開の工夫、単元を貫く課題や学習問題の設定の仕方、子どもの表現の引き出し方・見とり方などについて考え、授業力を向上させる。</p> <p>(1)「授業で理科を語り合おうー小・中学校合同授業研究ー」授業者・井田中学校理科教諭3名</p> <p>(2)「子ども達の資質・能力を育むための授業改善の手立て」国士舘大学 教授 小野瀬倫也氏</p> <p>(3)「おもしろ科学実験」市内小学校 &amp; 中学校CST、中学校理科部会観察実験推進委員会 他</p> <p>(4)「粒子領域が好きになる」総合教育センター指導主事</p> <p>(5)「エネルギー領域が好きになる」総合教育センター指導主事</p> <p>(6)「地層・植物観察研修」小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員</p> <p>(7)「天体観測研修」小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員</p>	全校種 教職員	7/3 7/22 7/23 7/25 10/2 12/18	268

205	生活科教育	石井	<p>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</p> <p>(1)動物園体験実習（1日目午前）～実習 餌の調理、寝床の準備等～・夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(2)動物園体験実習（1日目午後）～講義 野生動物の保護及び動物病院の実態、現状 夢見ヶ崎動物公園・園長 授業づくり 発表</p>	全校種教職員	7/22	6
206	音楽科教育	伊藤由	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1)小学校音楽科共催研修 「管弦楽指導」 講師：山下雅央・村上紀義・渡部 樹</p> <p>(2)小学校音楽科共催研修 「器楽指導」 講師：林 紘史・吉森 祐也</p> <p>(3)「音楽の学びを深める創作と音楽づくり研修」 講師：マイケル・スペンサー</p> <p>(4)中学校音楽科共催研修 講師：長根協会</p>	(1)(2)小教員 (3)は小中教員 (4)は中教員	7/29 7/30 8/5 1/22	177
207	図画工作・美術科教育	岩崎	<p>■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。</p> <p>(1)小学校図画工作科共催研修 6つの領域で実技研修を行う 講師：図画工作科常任委員</p> <p>(2)実技研修 「一般多色刷り版画による連続模様制作」 講師：北村健太（麻生中学校教諭）</p> <p>(3)鑑賞教育研修「問うことによる深い学び」 講師：小池研二（横浜国立大学 教授）</p>	全校種教職員	7/26 8/2	173
208	体育・保健体育科教育	中野	<p>■ 実技研修や講義を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。</p> <p>(1)体育・保健体育（共催研修）・荒谷健一（川崎市立犬蔵中学校総括教諭）</p> <p>(2)体育・保健体育（共催研修）・山崎朱音（静岡大学）</p> <p>(3)体育・保健体育（共催研修）・高井 明（元川中島中学校校長）指導主事（総合教育センター）、中学校教員・市内中学校教員</p> <p>(4)体育・保健体育（共催研修）・市内中学校教員</p>	全校種教職員	6/25 9/24 10/30 11/28	172
209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	越	<p>■ 題材開発や教材開発のために、安全面に配慮した実技研修を行い、学習指導上必要な教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1)家庭・技術・家庭科（家庭分野）「タニタが考える健康づくりとは」（中学校技術・家庭科研究会共催研修）麻生美保子（タニタヘルスリンク）</p> <p>(2)(3)家庭・技術・家庭科（家庭分野）「生活に役立つものづくり」（中学校技術・家庭科研究会共催研修）大嶽秀夫（蛇の目ミシン）</p>	全校種教職員	8/19 8/20	130
210	技術・家庭科(技術分野)教育	望月	<p>■ 題材開発や教材開発を視点とした研修を行い、教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1)技能・技術研修1（共催研修）双方向性のあるコンテンツのプログラミング 講師：多摩・麻生地区教員</p> <p>(2)技能・技術研修2（共催研修）計測・制御のプログラミング 講師：多摩・麻生地区教員</p> <p>(3)技能・技術研修3（共催研修）コース別研修 講師：川崎総合科学高等学校教員</p>	中学校・高等学校教職員	8/19 8/21	115
211	小学校外国語（英語）教育	竹内	<p>■ 新しい英語教育に対応し、文字指導と学級担任が進める授業について研修し、指導力向上を図る。</p> <p>(1)文字認識や音韻認識について理解を深めよう 小学館集英社プロダクション講師</p> <p>(2)英語をより多く使って授業を進めよう イーオン学校教育課講師</p> <p>(3)英語を話す力を高めよう インタラク講師</p>	小学校教職員	7/23,24, 29 8/21	103
212	英語科教育	鬼頭	<p>■ 新しい英語教育に対応し、4技能を総合的に育成する指導を充実させるため研修を行い指導力の向上につなげる。</p> <p>(1)川崎を素材にした授業づくりについて考える。（初任者対象）民家園通訳ボランティア</p> <p>(2)発信する力を高めよう 玉川大学 準教授 工藤洋路</p> <p>(3)英語の授業づくりの基本を学ぼう 稲城市立稲城第一中学校 教諭 増渕素子</p>	中・高英語科教員	8/6 8/21	48
213	道徳教育	岡部	<p>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</p> <p>(1)動物園体験実習（1日目午前）～実習 餌の調理、寝床の準備等～・夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(2)動物園体験実習（1日目午後）～講義 野生動物の保護及び動物病院の実態、現状 夢見ヶ崎動物公園・園長 授業づくり 発表</p>	全校種教職員	7/22	6
214	特別活動	高橋	<p>■ 話し合い活動の指導のポイントと意欲を高める教材作りを実技演習を通して研修する。</p> <p>(1)「学級会の充実に向けた話し合いの具体的な方策を学ぶ①」講師：小学校特別活動常任委員会</p> <p>(2)「学級会の充実に向けた話し合いの具体的な方策を学ぶ②」講師：小学校特別活動常任委員会</p>	全校種教職員	8/21	28

215	総合的な学習の時間	石井	<p>■ 体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。</p> <p>(1) 福祉単元の充実 各区社会福祉協議会職員との情報交換や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。長沼豊（学習院大学教授）</p> <p>(2) 多摩川の生物観察【がさがさ探検隊】多摩川での「がさがさ体験」で、水棲生物や河川植物の観察を行う。講師 中本 賢（多摩川塾 塾長）</p>	全校種 教職員	7/23 7/24	56
216	高校教育	山中	<p>■ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と評価について、研修する。</p> <p>(1) 主体的な学び、対話的な学び、深い学びとは何かについての講演。</p> <p>(2) 川崎市立川崎高等学校の総合的な探究の時間を参考に、それぞれの教科でどのような資質・能力が育成されるかについて、グループワークを行う。</p> <p>講師：森本 信也（横浜国立大学名誉教授）</p>	高校 教職員	8/23	22

#### 4 教育課題研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延 人数
301	研究の進め方	石井	<p>■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。</p> <p>(1) 「はじめの一歩を踏み出そう」</p> <p>(2) 「笑顔で学び合う研究協議に変えよう」</p> <p>(3) 「1年間の研究の進め方を振り返ろう」</p> <p>小林宏巳（早稲田大学教授）</p>	全校種 教職員	4/18 6/14 12/20	30
302	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	鬼頭	<p>■ 「主体的・対話的で深い学び」の基本的な考え方や実現のポイント、実際にどのように実現していくのかを学ぶ。</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現のポイント・ワークショップ 梅澤秋久 横浜国立大学教授</p> <p>(2) 授業改善を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現の手立てについて考える。</p> <p>授業者：今井中学校 眞田優子 教諭</p>	全校種 教職員	8/8 10/8	50
303	子どもの心をひらく児童生徒指導	高橋	<p>■ 人権尊重を意識した教育活動を行うために、信頼関係を築くエクササイズを実技演習を通して学ぶ。</p> <p>(1) 信頼関係を育てるエクササイズ「心をひらく川崎の表現活動」児童文化研究会</p> <p>(2) 信頼関係を育てる参加・体験型玉川アドベンチャープログラム 白山明秀（玉川大学）</p>	全校種 教職員	8/8	24
304	初任者を対象とする川崎市内見学	築部	<p>■ 初任者研修において、川崎市の社会教育施設の専門的な役割について理解を深める機会の一つとして、「川崎市平和館」「市民ミュージアム」を実際に見学し、川崎市の歴史等について学び日常の教育活動に生かす。</p> <p>研修場所・川崎市平和館、市民ミュージアム</p>	初任者 研修対 象の初 任者	6/22	124
305	食育	越	<p>■ 食育に関する講話や調理体験を通して、食育に対する意識を高め、資質の向上を図る。</p> <p>(1) 食育講話・東京ガスインストラクター（東京ガス株式会社）</p> <p>(2) 調理実習・東京ガスインストラクター（東京ガス株式会社）</p>	全校種 教職員	7/22	19
306	自分を大切にす健康教育	築部	<p>■ 子どもの健康課題である食生活や睡眠、喫煙、薬物乱用、性に関する問題等の実態を把握し、子どもの発達課題に応じた健康教育の在り方や進め方について講義や演習を通して学び健康課題解決に生かす。</p> <p>(1) 楽しく豊かに学ぶ保健教育の創り方・岡崎勝博（東海大学体育学部教授）</p> <p>(2) 学校における保健教育の推進について・横嶋剛（文部科学省初等中等教育局健康教育食育課健康教育調査官）</p>	全校種 教職員	8/20 12/9	56

307	主権者教育	鶴木	<p>■ 川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。  (1) 主権者教育概要説明 (2) 授業計画の作成</p>	全校種 教職員	8/9	9
308	企業派遣	松本	<p>■ キッザニアを運営する株式会社のビジネスモデルを学ぶとともに、多くの学校団体が来場するキッザニアを研修の題材として、子どもへの関わり方や考え方について学び、様々な視点から教育活動に取り組むことができる資質や能力を高めます。</p>	全校種 教職員	7/26	20
309	学級新聞づくり	中野	<p>■ 児童・生徒が作成した作品を参考にしながら、わかりやすいまとめ方や簡単なレタリングの仕方など、学年のレベルに応じた新聞づくりについて研修をする。  (1) 学級新聞づくり講習会 講師：中学校学校新聞部会常任委員</p>	小・中教 員	7/25	11
310	ビジネスマナー	望月	<p>■ 実技演習や実践交流を通じて、社会人としてのビジネスマナーを学び、教職員としての資質の向上を図る。  (1) ビジネスマナー研修 講師：坂巻美和子（社員教育研究室 代表取締役）</p>	全校種 教職員	8/2	34
311	学校図書館オンラインシステム	和田	<p>学校図書館オンラインシステムについて（概要）  システムを利用した「貸出」「返却」「利用者検索」「資料検索」等  バーコードリーダーの使い方  利用者一括登録 等</p>	全校種 教職員	8/5	16
312	教育相談Ⅰ「いじめをうまない学級・学校づくり」	山田	<p>■ キレる状態とは何かを理解し、講義演習を通してその支援について学ぶ。  (1) 理論 教育相談センター指導主事  (2) 実践 教育相談センター指導主事</p>	全校種 教職員	7/30 7/30	42
313	教育相談Ⅱ「ケース会議の実際」	板橋	<p>■ アセスメントに基づいた理解と対応の仕方、ケース会議の進め方を講義、演習を通して学ぶ。  (1) 事例検討会の在り方 芳川玲子（東海大学・センター専門員）  (2)～(4) 事例検討会の実際 芳川玲子（東海大学・センター専門員）</p>	全校種 教職員	8/1 8/1 8/6 8/6	48
314	教育相談Ⅲ「教員のための学校精神保健」	山田	<p>■ 思春期以降の心の病気についての理解と対応を学ぶ。  (1) 東京えびすさまクリニック 院長 山登 敬之</p>	全校種 教職員	8/21	33
315	教室でできるパラムーブメント	藤田	<p>■ スポーツを通じた障害理解啓発プログラムを体験しながら、多様性や共生社会について考える。</p>	全校種 教職員	8/7	28
316	特別支援教育Ⅰ「コーディネーター専門」	盛光	<p>■ 特別支援教育について、より実践的で専門的な知識を身につける。  (1) (2) 「高等学校の支援教育について考える①②」  多摩少年院法務教官・LD発達相談センター 三島節子  (3) 「音声教材の利用（マルチメディアデジ教科書・Access Reading）」  東京大学先端科学センター  (3) 「ダウン症の理解と支援」公益財団法人日本ダウン症協会 代表理事 玉井邦夫</p>	全校種 教職員	7/23AP 7/30AP	89
317	特別支援教育Ⅱ「通級指導教室専門」	近藤	<p>■ 通級指導教室における専門性の向上を図るために、具体的な指導法を学ぶ。  (1) 「新学習指導要領から見た通級指導」栗山 八寿子（長沢中学校長）  (2) 「発達障害がある子の自己認知」広瀬宏之（横須賀市療育相談センター 所長）</p>	通級指 導教室 担任等	7/30	170
318	特別支援教育Ⅲ「重度の障害を持つ子への支援」	藤田	<p>■ 重度心身障害児に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図る。  (1) (2) 肢体不自由特別支援学校での実践見学及び体験 県立中原養護学校  (3) (4) (5) レポート報告及び協議 土谷良巳（上越教育大学名誉教授）</p>	特別支 援学 校、特 別支 援学 級担 任	6/4AP 6/24P 8/5AP	60
319	特別支援教育Ⅳ「きこえや見え方に課題のある子への支援」	鹿島	<p>通常の学級、特別支援学級、特別支援学校に在籍する難聴児童生徒、弱視児童生徒に対する基本知識を学び、実践的指導力の向上を図る。  講師①②川崎市立豊学校 三上庸子、江守里香、伊藤泰子  講師③④横浜市立盲特別支援学校 勝谷奈保子、松尾美代子、中西大輔</p>	全校種 教職員	5/14 5/28 6/4 7/10	37
321	前長期研究員研究報告研修	鶴木	<p>前年度長期研究員の研究の内容と、その後の実践の様子について報告し、参加者とともに協議して指導力の向上を図る。</p>	全校種 教職員	9/11	60

5 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
401	養護教諭キャリアアップ	築部	<p>■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。</p> <p>(1) 児童生徒がやる気になる、おもしろいと感じる保健教育を目指して 物部博文（横浜国立大学教育学部教授）</p> <p>(2) 平成30年度文部科学省健康教育指導者養成研修報告会 安藤あゆみ（川崎市立高津小学校 総括教諭、養護教諭） 吉村直子（川崎市立橋高等学校 養護教諭）</p> <p>(3) 求められる養護教諭の資質・能力について考えよう 森久陽子（川崎市立渡田中学校 総括教諭・養護教諭） 田中理恵（健康教育課指導主事） 築部めぐみ（カリキュラムセンター指導主事）</p>	養護教諭	8/20 8/23	53
402	学校事務職員	望月	<p>■ 学校事務職員が主体的に学校組織マネジメントに参画していくために必要な資質・能力の向上を図る。</p> <p>(1) 学校組織マネジメント 講師：高木 展郎（横浜国立大学名誉教授）</p>	学校事務職員	8/6	37
403	栄養教諭・学校栄養職員	高橋	<p>■ 家庭科を中心とした各教科等における食に関する指導について、理論と実践方法を学ぶことを通じて協力指導の実践力を養う。</p> <p>講師：杉山 久仁子（横浜国立大学教育学部長 教授）</p>	栄養教諭・学校栄養職員	9/19	41
404	学校給食調理員	越	<p>■ 講義や実技演習を通して、食と健康に関する幅広い知識や技能を身に付ける。</p> <p>(1) 調理に関する講義と実習、環境に配慮した調理エコクッキング（東京ガス株式会社）</p>	学校給食調理員	7/22	19
405	幼児教育と小学校教育の円滑な接続	石井	<p>■ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続</p> <p>(1) 子どもの学びと育ちをつなぐために～保育園、幼稚園、小学校それぞれの取組から考える～ 幼児教育、小学校教育に求められていることを共有し、幼保小連携の在り方について事例発表、ワークショップを通して考える。講師 秦野悦子（白百合女子大）</p> <p>(2) 子どもの育ちをつなぐために～学びの芽生えから自覚的な学びへ～ 子どもの発達を踏まえ、一人一人の子どもの見方、関わり方のポイントを学ぶ。 講師 秦野 悦子（白百合女子大）</p>	全校種教職員	8/23	56

6 夜間利用研修 リクエスト研修 その他

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
501	夜間利用「音楽科教育」	伊藤由	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善への具体的な方策を実技・講義を通して研修し、授業力の向上を図る。</p> <p>(1) 指揮法講習① 講師：田久保裕一 (2) 指揮法講習② 講師：田久保裕一</p>	全校種教職員	10/11 10/18	45
503	休日利用 英語力向上	竹内	<p>■ 新しい外国語教育で求められる教員の英語力向上を図る。</p> <p>(1) 基礎的な英語力を高めよう イーオン学校教育課講師 (2) 英語力をさらに高めよう イーオン学校教育課講師 (3) 英語をより多く使って授業を進めよう イーオン学校教育課講師</p>	小学校教員	7/13,27 11/9,23 12/7,21	69
502	休日利用 授業力向上研修	永田	<p>■ 授業事例から考える21世紀の学力とこれからの学び</p> <p>(1) ビデオ授業記録から協議を通して、これからの授業の在り方について考える 佐藤学（学習院大）</p>	全校種教職員	8/17	60
	リクエスト研修		<p>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。</p> <p>(1) 要請に応じて随時設定・指導主事（総合教育センター）</p>	全校種教職員		1,479

### 3 カリキュラムセンター事業

令和元年度は、新学習指導要領の趣旨及び育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実と、「かわさき教育プラン」の理念の実現に向けた取組の推進を図るために、次の5つを事業目標として各事業を推進した。

#### ■事業目標

- 1 学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実
- 2 「わかる授業」の実現に向けたきめ細やかな指導の充実についての指導・支援の推進
- 3 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進
- 4 教職員の資質・能力や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備
- 5 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

#### ■事業内容

#### 1 学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実

##### (1) 拡大要請訪問・要請訪問の実施

- 各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに、各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。
- 拡大要請訪問の実施前後等に指導主事が訪問して校内研修を行うなど、単発的な訪問に終わらないような工夫を試みた。また、要請のあった学校の教育目標や学校経営計画等を事前確認し、各学校のニーズに合わせた支援を行った。  
★拡大要請訪問 24校（1校中止）

##### (2) 教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成

- 教育課程研究会では、授業研究や研究協議を通して、新学習指導要領の趣旨や内容について周知するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「児童生徒の発達を支える指導の充実」等についての理解が深まるように努めた。
- 教育課程研究会については、文部科学省からの新しい情報の迅速な周知に努めるとともに、授業改善及び学習評価の充実の視点に基づいた授業提案を研究（部）会と協力して行うことができた。資質・能力の確かな育成に向けた授業提案・協議のさらなる質の向上が重要であると考えている。  
★平成29年度 5,591名 平成30年度 6,930名 令和元年度 7,783名
- 小・中学校については、各学校が学習指導要領及びかわさき教育プランの理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる資料として総則冊子を作成した。また、研究（部）会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究冊子を作成した。
- 総則は、カリキュラム・マネジメントの研究を行い、実践事例を掲載することができた。小学校事例集の作成・編集方法を見直し、出張回数を絞り、会議の時間設定を改善した。
- 高等学校については、新学習指導要領の趣旨や内容及び喫緊の課題を各教科等研究協議会等の機会を活用し伝達することにより、各学校への周知を図った。また大学入学共通テストに関して、文科省の地方説明会を開催した。道徳については、道徳教育推進教師を設置し、充実の方向で進み始めた。
- 冊子「新学習指導要領に基づく授業改善の手立て」をライフステージに応じた研修や拡大要請訪問等で使用するとともに、各学校の校内研修や日々の授業実践等で活用できるよう具体的な活用方法の紹介に努めた。
- 小・中学校の教育課程編成に携わる教員を対象とした新教育課程説明会を実施し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成について周知した。文科省の資料を基に、学習評価についての考え方や評価規準作成の方法について、教員の理解が深まるように努めた。

#### 2 「わかる授業」の実現に向けたきめ細やかな指導の充実についての指導・支援の推進

##### (1) 全小・中学校で実施する習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の支援

- 算数・数学の授業において、センター作成の冊子やDVD等を活用し学習内容や児童生徒の実態に応じて、単元の適切な箇所、習熟の程度に応じた少人数指導による授業を実施できるように支援した。
- 各学校に「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」担当者を置き、年2回実施する担当者会で、学校における指導体制や指導方法等についての情報交換を行った。「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」が他教科等の授業や教育活動に生かされるよう、成果や考え方を広め、実践につながるよう支援した。  
★担当者会2回実施（4月学校体制の確認、情報交換など・10月実践報告など）

## (2) 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の研究

- 長期研究員と研究員による「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」の実践的研究を行い、「粘り強く取り組む態度」を醸成する手立てについて、具体的な指導方法の研究を行った。また授業実践事例DVDを作成し、小・中学校全校に配布するとともに、その活用について周知した。
- 授業で子どもが考える場面を明確化し、粘り強く取り組む態度を醸成する手立てを確立し、発表した。また、研究協力校の実践をもとに、教員の指導力向上を目的とした指導用映像教材を作成した。
- ★研究報告会参加者 113名
- ★教員向けDVD教材の作成。令和2年度各学校1枚配布

## 3 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

- 研究主題「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」のもと各種研究に取り組んだ。

### (1) 学校教育に関する調査・基礎研究

- 指導主事による施策研究及び調査・基礎研究として、研修の見直し、学力調査分析活用、新しい評価、教科用図書の調査研究等に取り組んだ。
- プロジェクトチームによる各種研究の取組が成果を上げた。
  - ・指導主事研究として、育成指標に基づく校外研修(Off-JT)の在り方や、OJTとの有機的なつながり等について研究し、その成果を報告した。また、研究の過程でOJTの好事例をリーフレット「～学び合う先生、育ちゆく学校～教師力を高めるOJT」にまとめ、小中高特別支援学校に配布した。
  - ・全国学力・学習状況調査、市学習状況調査を一体的に捉えて、チームで分析を行い、結果公表や教育委員会報告、授業改善への取組等を進めた。
  - ・小学校の新しい評価について、小学校長会と連携し、来年度以降の通知表の在り方について検討を重ね、手引きを作成した。
  - ・教科用図書の調査研究については、取組の効率化や紙面の統一化等を図りつつ、各教科担当が共通意識をもって取り組むことができた。

### (2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

- 研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、各学校の授業改善等の取組を支援した。
- 各研究会議が高い研究成果を上げたとともに、市内教職員の高い学習意欲等により、センター報告会には昨年度に引き続き多くの参加があった。参加者の増加や意欲の向上に対応して、会場の確保と共に、複数の報告に参加できるような報告会の持ち方や、新たな現代的諸課題に対応する研究の在り方等についてさらに考えていきたい。
- ★長期研究員と研究員による研究 6研究、指導主事と研究員による研究 8研究、  
カウンセラー研究 1研究、その他各室指導主事による指導主事研究を実施
- ★研究報告会 発表16分科会 全参加者数 1186名(昨年比146増)

## 4 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

### (1) 必修・希望研修の充実

- 教職員のライフステージに応じた年次研修を中心とする必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を育成指標に基づいて実施し、専門職としての資質・能力や指導力の向上を図る。また、「学び続ける教員」の育成と「働き方、仕事の進め方」の観点の両面からの研修の充実と見直し等、研修推進体制の整備に努めた。
- 川崎市教員等育成指標に基づき、各研修において育てたい資質・能力の重点を示し、より受講者が自分の目標をもち、主体的に研修を受講できるように、研修を計画し、実施した。特に、各学校で実践の中心的役割を持つ教員への研修は、具体例を挙げて少しでも校内での実践につながるよう研修の内容を検討した。
- ステージIでは、初任者研修・2年目研・3年目研を一体として捉えて研修内容・方法等の見直しを行った。中堅教諭等資質向上研修では、OJTを重視した研修内容に改善した。
- 育成指標に照らして、一部の必修研修の回数を削減したり、e-ラーニングの導入をしたりして、教員の多忙化につながらないようにしながら研修の質の転換を図った。
- 冊子「～学び合う先生、育ちゆく学校～教師力を高めるガイドブック」を、全教員に配布し、教員一人一人が課題と目標をもって学び続けること、及び、教員同士が学び合い育ち合う学校の実現に向けて支援した。
- 学び続ける教員として、校内のOJTを活性化させるために、研修ガイダンス等でガイドブックの効果的

な活用方法について説明するとともに、受講者の目標設定や研修計画を促した。

## (2) 指導改善研修の充実

○研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

## 5 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

### (1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校長会と連携を図り、川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに、報告会等を通じて各学校へ全市的な課題と授業改善の視点等を周知した。全国学力・学習状況調査については、調査結果の経年比較を含む詳細な分析を心掛け、分析結果を示すとともに、授業改善説明会を実施した。
- 授業改善報告会、説明会では、調査結果について学校に分かりやすい分析、説明を心がけた。また、担当者への周知に留まらないよう、校内での活用の仕方について提案した。拡大要請訪問等においても、調査結果をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 全国学状では、初めて英語調査が実施されたが、適切に実施することができた。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。
- 研究推進校事業では、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。総務部とセンターで連携して取組を支援することができた。
- 研究研修支援講師派遣事業は、教育課程の編成や研究・研修活動の活性化のために講師派遣を行い、各学校がより特色ある教育活動が実施できるよう、専門的な立場からの指導・助言を受けることができた。
- ★研究研修支援講師派遣 22校      ★研究推進校 45校
- 川崎市の教員を目指す大学生等に向けた「かわさき教師塾『輝け☆明日の先生』」を開講した。
- 教員育成指標「ステージゼロ」に基づき、研修内容、実施方法、研修対象、募集方法など研修全体を見直し、新しい形で実施し、川崎市の教員を目指す大学生の資質・能力を高めるような研修とすることができた。特に、参加者が演習を通して、他者とかかわりあいながら学ぶよさを実感できるように取り組んだ。

### (2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 小学校の学習評価周知の会を実施し、学習評価についての考え方や評価規準作成の方法について説明し、新学習指導要領の全面実施に向けて、文科省の資料の伝達や周知をすることができた。
- ALT、小学校英語強化教員（ERT）配置による外国語（英語）教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校外国語（英語）教育中核教員研修、小学校中核英語教員（CET）研修、中・高等学校外国語（英語）教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。
- ALTを10名増員し、4技能を育成する授業改善及び小学校外国語教育の授業時間数増に応じた指導体制の整備を進めたとともに、ALTの効果的活用に向けた研修を実施した。また、小学校英語強化教員（ERT）の支援により、学級担任の英語授業力の向上を図った。
- 英語教育推進リーダーを講師とした実践的な必修研修を実施し、英語力と指導力の向上につなげた。また、CET研修の実施により、各小学校のCETを中心とした指導体制の整備を図った。
- ★推進リーダーによる研修参加者 小学校外国語（英語）教育中核教員研修 各学校1名、中学校外国語教育指導力向上研修 各学校1名、高等学校外国語教育指導力向上研修 全日制定時制各1名
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員CST養成プログラム」を実施し、中核理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質・能力の向上を図った。
- 中核理科教員を活用して、初任安全指導研修等各種理科研修を実施した。理科支援員については、支援員対象の研修を充実させることができた。
- ★理科支援員配置校 小学校全114校
- ★CST認定者数 昨年度6名、全69名、CSTによる研修実施 4回
- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小・中合同道徳教育研修や道徳教育推進教師連絡会議、教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。
- 小・中合同研修では、実践的な授業及び評価に関する研修を行い、推進教師研修では、学校教育活動全体を俯瞰して計画する道徳教育についての研修を行った。また、高校の道徳教育推進教師に対する研修会を実施し、高校における道徳教育に対する意識を高めた。
- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業等を円

滑に実施した。

- 主権者教育については担当者会や研修会、要請訪問等を通じて周知を図った。高等学校においては、高校生議会を実施し、自分たちの意思が社会を創ることにつながる体験をすることができた。
- 教育改革推進担当と連携してキャリア在り方生き方教育の研修や説明会を実施した。各学校の推進担当者に推進校の取組を紹介するとともに、令和2年度から始まるキャリア・パスポートについて周知することができた。
- 中学校進路部会や指導課と連携して、進路学習や進路業務等を支援した。
- 教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。
- 各種冊子の編集・発行については、その趣旨を踏まえた業務の遂行ができた。

### **(3) 人権尊重教育の推進**

- 総務部に協力して、人権尊重教育担当者研修や移動教室、進路説明会の実施等、人権尊重教育に係る事業を円滑に実施した。

### **(4) 海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談・支援の充実**

- 海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談並びに日本語指導等協力者派遣事業の充実を図った。
- 小・中・特別支援学校で特別の教育課程の編成・実施を進め、日本語指導の充実を図った。
- 日本語指導を必要とする児童生徒の増加に係る課題やその対応について、関係部局で共有することができ、充実を図る新たな取組へと発展させることができた。

★本事業は令和2年度から教育政策室へ移管

## **6 その他**

### **(1) 各種指導事務の円滑な推進**

- 各種事業について、他室や指導課、区教育担当、教育改革推進担当等と連携して実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習、表彰事務、作品展の運営等の指導事務を円滑に実施した。
- 学籍・指導要録等公簿についての問い合わせに丁寧に対応し、各学校における業務を支援することができた。
- 夜間学級については、学校と連携を密にして進めることができた。今後も様々なニーズや個々の実情に応じる必要があり、学校と教育委員会の連携を図っていきたい。

★夜間学級入学・編入学者 2名

### **(2) 各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進**

- 研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。
- 会議の精選、研修等応援体制の見直し、事務作業の軽減等により必要な業務遂行時間を生み出すことに努めた。
- 文書施行、庁内ファイル共有サーバーの活用等で、業務遂行時間を生み出すことができた。また、エクセル集計マクロツール等を活用して調査を行うことで、集計や参加者名簿作成等の事務処理時間の大幅な短縮ができた。
- 研修に必要な人数を見直し、最低限度の人数で研修を運営することができた。
- 教科書調査研究業務に際し、研究日を設定し、業務に専念できるようにした。

### **(3) 教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進**

- 神奈川県、関東地区、指定都市、全国の各教育研究所連盟等との連携を図った。
- 指定都市教育研究所連盟第19次共同研究に参画し、調査研究の実施と分析を円滑に進めた。
- 県教連研究協議会「人材育成部会」をセンター報告会と同日開催した。

★県内の教育研究所等15機関、35名の参加

### **(4) 横浜国立大学との連携事業**

- アドバイザースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業の推進を図った。
- 教職大学院に指導主事を客員教授として派遣した。
- 各学校での研究や研修にマッチした専門家を招聘することで、先生方の力量を高めることにつながった。
- 教職大学院客員教授として指導主事を派遣し、情報に関する授業や大学院生の研究の指導を行うとともに、運営会議や諮問会議に参画し、長期研究員や指導主事研修について、周知した。

★アドバイザースタッフ派遣 5件

## 4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICTの環境整備、市立学校のコンピュータネットワーク（教育用・校務用・図書館用）の運用管理、教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修を行う。

また、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の一層の推進を図る。

### ■重点目標

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

- 1 教育の情報化に向けた研究の推進
- 2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実
- 3 市立学校のICTの計画的整備
- 4 川崎市教育情報ネットワークの活用促進
- 5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEBの活用促進、ネットワーク及び端末の最適化
- 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

#### II 視聴覚センター事業の推進

### ■事業内容（事業概要）

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進

市の教育プランや総合計画を考慮し作成された、「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子供とふれあう時間の確保に取り組んだ。

「情報化推進協議会」を中心にPDCAサイクルを循環させることにより、本計画の継続的な見直しを図った。

#### 1 教育の情報化に向けた研究の推進

学校に整備されたICT機器の効果的な活用及び教員のICT活用指導力の向上、児童生徒の情報活用能力の育成を図るためのカリキュラムの開発に向けてセンター内で連携した研究を進めた。

##### (1) 情報活用能力育成のための研究会議（長期研究員と研究員による研究）

テーマ「児童生徒の情報活用能力を発揮させる授業づくり

～考えを表現し伝え合う学習場面におけるICT活用を通して～

新学習指導要領で学習の基盤として位置付けられた資質・能力である情報活用能力の育成と、ICTの適切かつ効果的な活用ができる授業づくりについての研究に取り組んだ。各教科等の協働的な学習場面において、ICTの活用方法として操作が容易で直観的なタブレットコンピュータを活用したことで、児童生徒が自らの考えを具体的かつ詳細に表現し伝え合う学習場面をつくり上げることができた。その結果、児童生徒がそれぞれに問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしている姿が見られただけでなく、各教科等の授業において情報活用能力を発揮させながら本時目標に迫るための取り組みやすい学習場面の事例を示すことができた。

##### (2) 教育情報化推進モデル校との研究【旭町小学校・小杉小学校・川崎高等学校附属中学校】

旭町小学校・小杉小学校では、コンピュータ室における機器整備及び、タブレットコンピュータ整備の在り方についての研究を行った。ギガスクールに係る小学校におけるコンピュータ室機器整備の在り方や、一人一台コンピュータ整備についての方向性を整理することができた。

附属中学校では、一人一台コンピュータの学習環境をもとにした機器整備の在り方についての研究及び、一人一台コンピュータを活用した情報活用能力を発揮させる学習場面についての研究を行った。BYOD (Bring Your Own Device) による一人一台コンピュータの学習環境から整理した成果や課題から、川崎市立学校における機器整備等に向けての新たな視点が見えてきた。また、各教科等の授業において一人一台コンピュータを活用し、生徒が自分の考えを表現し合う学習場面づくりをすることで、情報活用能力を発揮させることができる授業

づくりの方向性が見えてきた。

- (3) 情報教育に関する冊子の作成（「5分でわかる情報教育Q&A【第13版】」・指導主事研究）  
次年度から順次実施される新学習指導要領も考慮し、これまでの内容を充実させるとともに、昨年度に引き続き「情報教育特集号」とした。新学習指導要領で各教科等の学習の基盤となる資質・能力として示された情報活用能力の育成に向けて「情報教育」に関する項目を充実させるとともに、新しく「キャリア在り方生き方教育とICT活用のページ」「効果的なタブレットコンピュータの活用のページ」等を掲載した。

## 2 授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研修の充実

指導力の向上や確かな学力の育成、校務の標準化・効率化を図るために、効果的なICT機器の活用研修を推進した。

### (1) 夏季研修

研修講座番号、研修講座名、実施回数（参加延べ人数／定員延べ人数）は次のとおり。

101	タブレットPCを活用した授業づくり	2回(28/40)	105	情報セキュリティ及び情報モラル教育	1回(20/30)
102	小学校段階におけるプログラミング教育	1回(21/20)	106	学校のホームページを更新しよう	1回(18/36)
103	プログラミング教育の教材を体験しよう	2回(28/30)	315	学校図書館オンライン研修	2回(16/72)
104	小学校情報教育研究会との共催	1回(21/20)			

研修後の受講者のアンケートでは、実施の授業につながる研修であったとの評価が多かった。ICT活用スキルの向上はもちろん、タブレットを活用した授業例の紹介や、模擬授業、実際の授業計画など、ICTを活用して授業力向上をめざす内容に力をいれた。

### (2) リクエスト研修

ICT活用や情報モラル教育等、学校や教員の要請に応じて行う研修を企画・実施し、教職員のスキルアップを図った。また情報セキュリティ関係のリクエストも増えた。

- ・ICT活用研修 4校
- ・プログラミング教育 11校
- ・情報モラル教育 30校
- ・情報セキュリティ関係 2校

### (3) 情報モラル教育に係わる研修の実施

各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼。

研修講師等については、センターから紹介するとともに、リクエスト（学校訪問）研修を通して教職員等への情報モラル教育研修の充実に取り組んだ。リクエスト研修の際には、研修講師による情報モラル教育の実施だけではなく、各教科等によるカリキュラムへの位置付けについても含めた研修として進めた。

## 3 市立学校ICTの計画的整備

新学習指導要領実施に向けた教育環境の充実に向け、川崎市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた。

### (1) 校務用コンピュータ機器更新・増加分整備

リース満了に伴い1496台の校務用コンピュータの更新を行うとともに、教員増に伴い校務用コンピュータ32台を新規に配置した。また、校務支援システムの運用のため、昨年に引き続き各校に教員定数より一台多く共用分として校務用コンピュータを整備した。

### (2) 校務支援システム再構築

令和2年3月に5年間の当初契約期間を満了するのに伴い、令和2年4月より運用を開始する校務支援システムの再構築について、円滑に移行が進むよう、学校の教職員や関係部署の協力をいただきながら、帳票定義検討委員会や研修の開催、データ移行の周知等を行った。

### (3) 小学校コンピュータ等機器等整備（その1）

小学校39校のコンピュータ室等の機器入替を行った。従来のノート型コンピュータをキーボード付きのタブレットコンピュータに、固定式の机を可動式の机にする等、学習指導要領で示されえている「主体的・対話的で深い学び」を実現するための環境改善を取り入れた整備を行った。

### (4) 校務用サーバ機器（A-Locky、D-Protector、認証サーバ等）整備

令和2年度からの新校務支援システム稼働に向けた情報セキュリティ向上の二要素認証に対応するため、新認証キーD-Protector導入のための認証システムの更新及び旧システム（A

-Locky)からのデータ移行等を行った。

(5) 総合教育センター及び各拠点ネットワーク等機器更新

総合教育センター内のファイルサーバ、ファイアウォールの更新及びWebメールソフトウェア(CyberMail)の更新を行った。また、IPアドレス枯渇問題を解決するため各校のルータ整備も行った。

(6) 情報資産管理システム新規導入

学校に整備されている、約6,600台の校務用コンピュータについて、毎年の教職員の増減による移設や毎年のリース更新の発生等、負担となっている情報資産管理の効率的な管理や、可搬媒体(USBメモリ等)の制御等による学校情報セキュリティの向上を図るため、情報資産管理システムを導入した。また、このシステムを活用して、新校務支援システムの配信、設定等も行った。

#### 4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進

KEINS-NET、データベース、Webページの活用促進にむけて次のような業務を推進した。

(1) 学習指導案データベースの充実と活用促進

平成17年12月より、教員が必要とする学習指導案やワークシート、資料を学校のコンピュータから検索して、引き出せるように教科等の指導主事と連携して登録数を増やしてきた。また、校務用コンピュータからの検索、取り出しが可能になったことにより指導案データベースの活用が促進された。令和2年3月末の件数は次のとおりである。

① 登録指導案件数	4,173件
② 添付資料件数(登録指導案含む)	5,305件
③ アクセス件数	4,470件

(2) 学校、研究(部)会Webページ新規・更新・充実への支援

すべての市立学校のWebページをインターネットに公開し定期的に更新することを目指してきた。現在のWebページ立ち上げ状況は次のとおりである。

- ① 学校Webページ(インターネット公開178校、本年度更新178校 ※小杉小学校を含む)
- ② 研究(部)会Webページ(インターネット公開20、イントラネット公開30、計50)
- ③ 学校評価に関する資料をWebページで公開している学校数100校

学校Webページの定期的な更新を図るために、夏季希望研修以外にもWebページ作成・更新のためのリクエスト研修を学校向け3回、研究会向け1回、開講した。また、担当者が変わりWebページを維持しにくくなった学校には、川崎市独自のテンプレートを紹介し更新しやすくなるように支援した。今年度は、新規に川崎市独自のページテンプレートを使用した、学校ホームページテンプレート利用の個別研修(水曜日午後)を開催し、25校が参加しテンプレートを利用した見やすいWebページへ移行し、より更新しやすい環境づくりを図った。さらに保護者・地域からの信頼を深めるために、学校評価や教育方針等のコンテンツを全市立学校が掲載することを進めていく。

(3) 総合教育センターWebページの更新・充実

センターWebページには、イントラネット版とインターネット版、およびサインズWebがある。それぞれのコンテンツやリンクが有効に使えるか確認しつつ、より使いやすくなるよう内容の整理をするとともにコンテンツの充実に努めた。また、サインズWebについては、ページの構成を見直すとともに、教育委員会からの連絡をよりスムーズに伝えられるようにした。

(4) 川崎市図書館総合システムの有効活用

小学校、中学校・特別支援学校の図書担当者を対象とした研修や総括学校司書、学校司書向けの研修を行った。また、昨年度に続き、本年度は図書館総合システムをより有効活用できるよう図書ユーザIDに係るシステム改善や図書館管理上必要な消費税率の変更等の対応を実施した。

#### 5 校務支援システム・学務システム・サインズ ウェブSAINS-WEBの活用促進、ネットワーク及び端末の最適化

本格運用6年目となった校務支援システムの円滑な運用を図った。また、令和2年度から運用が始まる新校務支援システムへの移行に向けて、帳票定義検討委員会や研修の開催、データ移行の周知等を行った。

(1) ヘルプデスクの継続設置及び新校務支援システムの仮運用期間中のヘルプデスクの設置

各学校からの校務支援システムの操作に関する問い合わせに対応するため、ヘルプデスク（電話相談窓口）を今年度も継続して設置した。（対応時間 平日 9:00～18:30）また、新校務支援システムの仮運用中のヘルプデスクデスクも設置をした。

## (2) 高等学校学務システム

全日制定時制全 9 校で学籍管理、成績管理に運用している。通知表については各学校の特色を出しているが、その他の書類については統一した帳票の形式とし、全 9 校で統一した仕様にすることで操作手順も同じになり業務の効率化を図っている。次年度予定されているシステム更新に向け、課題の洗い出しや担当者へのヒアリング等を行い、仕様の検討を行った。

## 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

個人情報等の流失防止の観点から教職員の情報モラルの徹底に取り組んだ。市立学校に整備されたコンピュータやネットワークのセキュリティ向上に努めた。

### (1) 情報流失防止に関する活動

- ① 可搬媒体（USB メモリ等）の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成を依頼し、各学校で実施した。
- ② 「可搬媒体（USB メモリー等）の扱いへの周知について」を発出し、個人情報や重要情報等の原則持ち出し禁止、業務用の USB メモリの保管の徹底等について周知した。
- ③ 初任者研修、中堅教員等資質向上研修などの法定研修をはじめ、様々な研修や会議において個人情報保護の大切さと、個人情報の取扱いについて訴えてきた。また、全国で起きている個人情報流出事故を分析し、個人情報流出防止策の一環として注意喚起した。ゲーム機や携帯型音楽再生機を利用したインターネット接続、すれ違った人と自動的に通信する機能などについても研修を行った。

### (2) コンピュータウイルス対策に関する活動

ウイルスを検知した学校数は概ね減少している。ウイルス感染には、自宅で使用した USB 等の可搬媒体を使用したことで感染するものと、学習で利用するサイトの閲覧によるものが多く見られた。検知された場合は、学校に状況を確認し対策方法を指導している。特に校務用コンピュータでは、環境復元ソフトウェア（瞬快）を無効化しているためより注意が必要である。今後も研修会や文書等で対策依頼や発生時の連絡方法等について徹底を図りたい。また、10月に高等学校でランサムウェアに感染し、4台のサーバの再構築をすることとなった。再発防止対策として、ファイアウォールの導入をすることとなった。

### (3) ネットトラブルについての未然防止、啓発等のためリーフレットの作成・活用に協力。開催される川崎市立学校インターネット問題連絡協議会にて、学校、PTA、県警、有識者等と情報交換。

※「川崎市版 保護者向けインターネットガイド2019」（令和元年12月に小1～高3保護者・教職員へ配付）

### (4) 川崎市立学校インターネット問題相談窓口の相談件数及び内容

#### ① インターネット問題 相談総件数 36 件

（内容別件数）

- ・投稿等削除要望 11 件
- ・ネット依存相談 7 件
- ・グループ間トラブル 5 件
- ・ネットモラル対応相談 2 件
- ・課金請求対応 2 件
- ・ネット被害相談等 2 件
- その他

#### ② インターネット監視

（ネットトラブル発見時は、学校への連絡、プロバイダへの削除依頼をするなどして対応）

### (5) 「5分でわかる情報教育Q&A」（第13版）作成に関する活動

項目を整理し、内容についても新学習指導要領に関する新しい情報に基づいた「情報教育特集」を加えた。また、参考資料についても情報モラル教育や学習活動に関する資料について最新のものとした。

### (6) 「川崎市立学校における情報モラル教育の視点」が「いじめ防止基本方針（平成30年3月

改定)」に掲載され、引き続き、本年度も川崎市立学校における情報モラル教育について、指導課等との情報交換を行い、情報モラル教育に対するさらなる他課との連携推進を行った。

- (7) 個人情報の扱いに関して、U S Bメモリの適切な運用の周知に努めたが、個人情報の適切な管理ができていない学校があり、情報紛失事故が起きてしまった。対応として、関係部署と協議を進め個人情報や重要情報等の原則持ち出し禁止、業務用のU S Bメモリの保管の徹底等について、学校にとってより理解しやすい適切な運用の再通知を行った。

## II 視聴覚センター事業の推進

市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。

視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、37回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

- (1) 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備、貸出

教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週2回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

今後の課題はこれまでに貸出している機器類の補修である。

※令和元年度視聴覚教材の貸出状況（センター→ライブラリー）

教材		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mmフィルム	本数	0	0	4	10	3	0	29	0	20	8	5	8	87
ビデオ	本数	3	5	5	36	0	0	1	0	0	4	0	0	54
その他	本数	7	10	35	48	39	19	20	17	13	26	6	12	252
計	本数	10	15	44	94	42	19	50	17	33	38	11	20	393

- (2) 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

平和教育映像教材等連絡調整会議を11月26日に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、22作品を購入した。

- (3) 第37回わが町かわさき映像創作展の開催

わが町かわさき映像創作展は37回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。

○応募期間 令和元年10月8日（火）～令和2年1月9日（木）

○応募総数 20点（一般応募作品11点・小中学校各研究会推薦作品計6点）

○審査日 令和2年2月24日（金）

○審査員 6名

○表彰  
 ・グランプリ 1点（賞状・トロフィー） ・金賞 1点（賞状・楯）  
 ・銀賞 2点（賞状・楯） ・優秀賞 4点（賞状・楯）  
 ・奨励賞 4点（賞状・メダル）

○表彰式・作品上映会 令和2年2月22日（土）

○入賞作品

グランプリ

「見えない魔法使い」 野川中学校 映像制作部3年生B

金賞

「なんでいじめが起きるのかな？」 下布田小学校 ふだっこ放送局

銀賞

『『さいわい』の秘密』 幸高等学校 放送委員会

「聾学校について」 野川中学校 映像制作部2年生

優秀賞

「私たちをつくる掃除」 野川中学校 映像制作部3年生A

「大島わくわくアニマル」 大島小学校 令和元年度飼育委員会

「くまくんとうさぎちゃんの久末小探検」 久末小学校 放送委員会チーム「ちーあい」

「令有ニュース～有馬小の裏側を 見せちゃいましたスペシャル～」	有馬小学校 放送委員会
奨励賞	
「学校紹介ビデオ」	高津高等学校 視聴覚委員会
「みんなのテレビ特別編～災害に負けない～」	井田中学校 放送情報部
「校内テレビ放送『西テレ』」	西御幸小学校 放送委員会
「放送委員会紹介」	久末小学校 放送委員会5組グループ

(4) 映像教材の開発と提供

昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。今後も教材の充実を図っていく。

(今年度開発した映像教材)

- ① 「ANIMAMALL アニマモールかわさき（動物愛護センター）」
- ② かわさきマイスター

**【情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営】**

業務の円滑な運営のために学校や保守業者等との各種会議・委員会において、ネットワークや学校整備コンピュータの有効活用、校務支援・学務システムの導入・運用、情報セキュリティの徹底・啓発、視聴覚教材・機器貸出業務の運用等について連絡・調整を行った。

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| (1) 情報化推進協議会（校長会・学校）      | (7) 校務支援システム定例会           |
| (2) 情報教育学校担当者会（全学校）       | (8) 校務支援システム要件定義等検討部会     |
| (3) 情報収集活用委員会（研究(部)会）     | (9) 高等学校学務システム担当者会        |
| (4) 保守定例会（コンピュータ機器保守業者）   | (10) 平和教育映像教材等連絡調整会議      |
| (5) ネットワーク定例会（ネットワーク保守業者） | (11) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議   |
| (6) 情報化推進担当者会議(センター各室代表)  | (12) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会 |

## 5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。令和元年度の事業概要は次のとおりである。

### 1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

#### (1) 多様な学びの場における支援の充実

- ・指導課支援教育係と連携し、新学習指導要領等の行政説明や情報交換、研修等を行った。
  - 特別支援学級担当者会（4回）
  - 特別支援学校担当者会（3回）
  - 特別支援学校地域連絡会議（2回）
  - 通級指導教室センター的機能担当者会（7回）
  - 特別支援学校センター的機能担当者会（7回）
  - 特別支援教育事務説明会（1回）

#### (2) 個別の支援計画の作成と活用

- ・個別の教育支援計画（サポートノート）の検討会議を立ち上げ、新しい書式を提案した。
  - サポートノート検討会議（3回）
- ・一人一人のニーズに応じた連携しやすい個別の指導計画の活用に向けて、周知・活用を進めた。
  - センター教育相談の学校コンサルテーション、センター就学相談 等

#### (3) 障害者差別解消法施行後の取組

- ・合理的配慮について、保護者・本人からの表明から具体的な実施までの事例収集や発信を行った。
  - 基礎的環境整備として、ユニバーサルデザインの視点を意識した授業作りを進めた。
    - 特別支援教育コーディネーター連絡会議（4回）
    - 特別支援教育Iコーディネーター専門研修（4回）
    - リクエスト研修「ユニバーサルデザインの授業作り」等（17回）

#### (4) 特別支援教育問題研究会議における諸課題の研究協議(年3回)

- ・特別支援教育に関わる諸課題について、報告や意見交換を行い、今後の特別支援教育の推進に向けて協議を行った。
  - 就学・入級・進学にかかわる課題、特別支援学校・特別支援学級の現状と課題
  - 特別支援教育に関わる研修や情報管理、学校支援人材について、医療的ケアにかかわる課題
  - サポートノートの検討、放課後等デイサービス等との連携 等

### 2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

#### (1) 教育相談の実施

##### ① 来所相談の概要

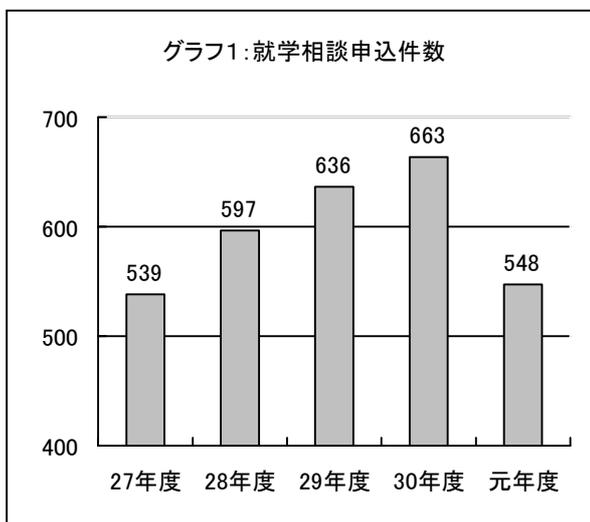
- ・来所相談件数と終結件数（表1）

年度により差があるものの、大きな変化はない。

表 1：来所相談件数	28年度	29年度	30年度	元年度
継続件数(終結)	1,035(732)	776(484)	1,010(544)	958(547)
新規件数(終結)	1,250(777)	1,317(539)	1,275(783)	1,216(786)
計	2,285(1,509)	2,093(1,083)	2,285(1,327)	2,174(1,333)

・就学相談件数の推移（グラフ1）

初就学に関わる相談件数の増加と合わせて、医療的ケアを必要とする児童や外国につながる児童の増加、保護者の希望の多様化等、困難なケースが増加している。通常の学級を希望する場合、学校との相談を先に行う方法を取り入れ、元年度は件数の増加を抑えた。就学相談専門員が1名増員されたこともあり、担当指導主事が103回他機関訪問を実施した。他機関訪問等により連携を深め、より適切な助言を行うことができた。



・相談担当者全員による総面接回数（表2）

就学相談件数が減ったこと、年度途中で相談員が2名退職し、欠員が続いたこともあり、元年度の総面接回数は減少している。

表 2：面接回数	28年度	29年度	30年度	元年度
一般的な相談	5,241	4,897	5,562	4,702
就学・入級等手続きに関わる相談	2,770	3,369	3,077	2,606
総面接回数	8,011	8,266	8,639	7,308

・相談待ち日数

相談の申込から初回面接までの待ち日数は、溝口・塚越相談室で平均して約一か月半である。

② 電話相談

・教育相談センターの電話相談の項を参照。

**(2) 就学相談の実施**

① 就学説明会（初就学）の実施

- ・事前に南部・中央・西部・北部各地域療育センター、指導課等と連絡会議で連携した。
- ・4か所の療育センター、一般の保護者向けに南部・北部、計6回、就学説明会を実施した。
- ・秋には年中児の保護者を対象にした説明会を各療育センター主催で実施した。

② 総合教育センター相談室における就学相談

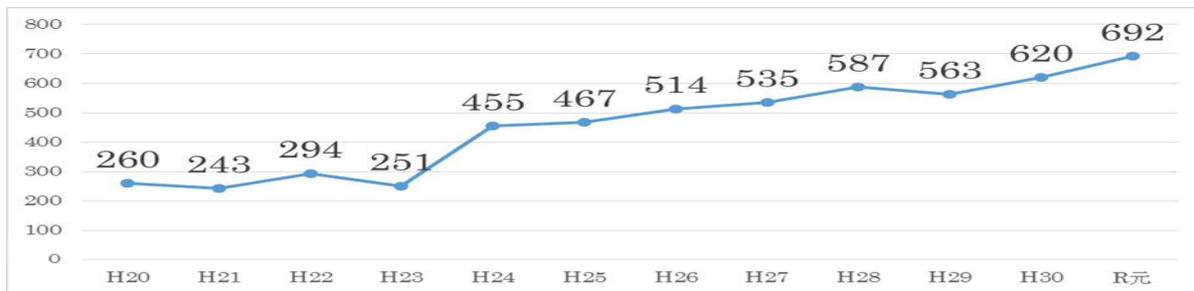
・就学説明会后、相談室（溝口相談室、塚越相談室）で就学相談を実施した。

担当指導主事と心理臨床相談員が、それぞれ保護者との相談と子どもの行動観察を担当し、初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続した。元年度は、特別支援学校希望の子どもについて集団での行動観察を行い、多様な場面での観察により適切な助言を行った。特別支援学校を希望するケース、合意形成が困難なケースについては、相談や行動観察を複数で対応する、療育センターや幼稚園、保育園を訪問して行動観

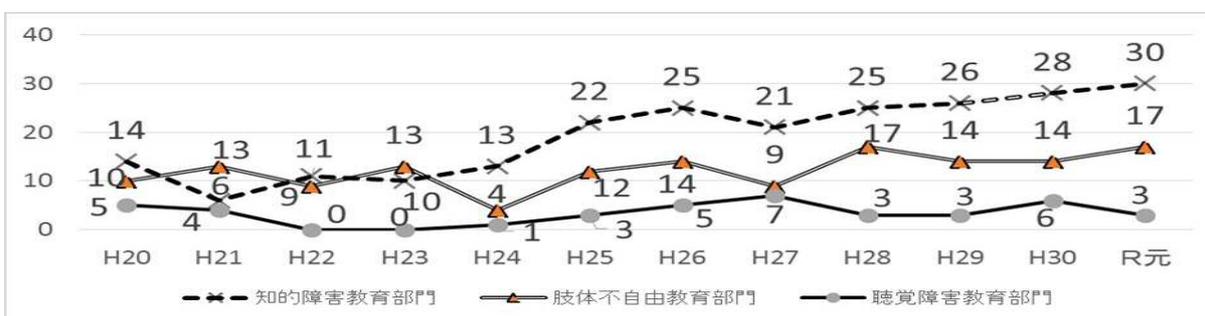
察を行う、小学校での教育相談に同行するなど、より丁寧な相談を行った。

### ③川崎市教育支援会議の運営

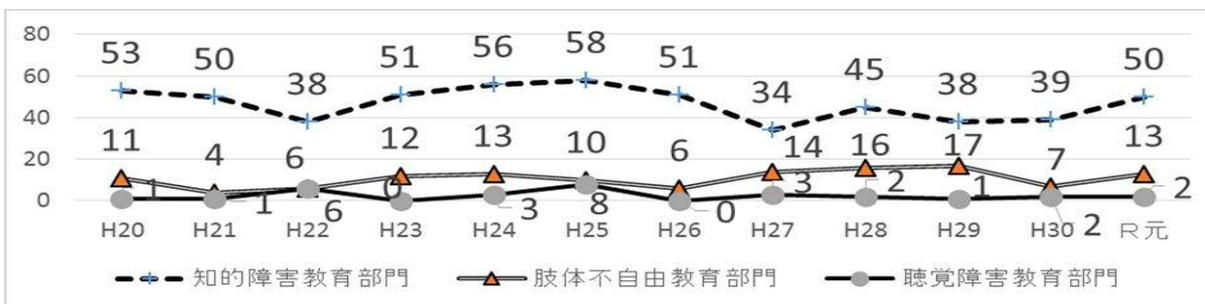
- ・年間3回の教育支援会議、7回の教育支援会議専門部会を開催した。
- ・川崎市教育支援会議審議件数及び進学内訳推移（グラフ2）



- ・特別支援学校小学部の就学の推移（グラフ3）



- ・特別支援学校（中学部）の就学の推移（グラフ4）



- ・小学校特別支援学級（グラフ5）



- ・中学校特別支援学級（グラフ6）



知的には平均域（IQ90 以上）であるが、対人面や行動面に困難が見られる、知的に重度、肢体不自由があり、ADL 面で全面介助など、多様な状態の児童生徒が特別支援学級に入級している。

#### ④中学校・特別支援学校進路相談連絡会

- ・特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について、県教育委員会、川崎市中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導や情報共有に努めた。

#### ⑤通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営（11 回）

- ・審議件数 387 件（小学校 312 件、中学校 75 件）であった。

令和元年 4 月現在、通級指導教室の在籍者数は以下の通りである。

小学校言語通級指導教室 391 名、情緒関連通級指導教室 414 名

中学校情緒関連通級指導教室 162 名、難聴通級指導教室 24 名

### (3) 学校コンサルテーションの充実

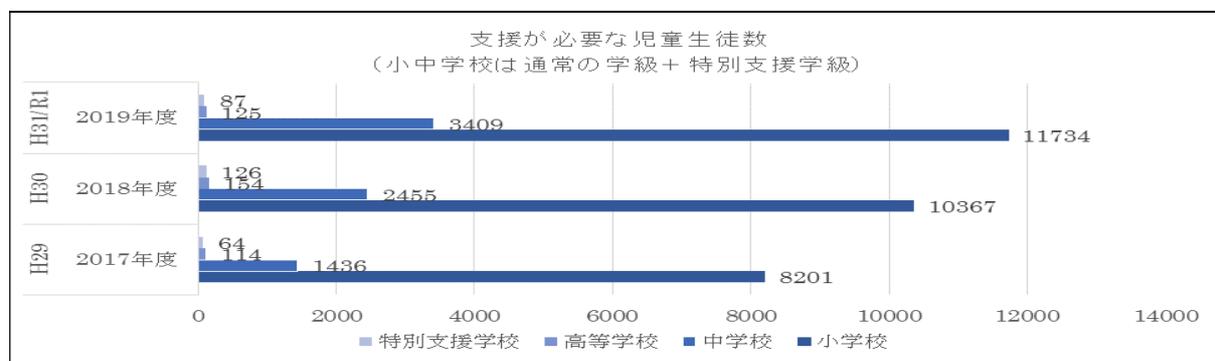
- ・来所した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについて学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は 174 件だった。

### (4) ABC けんさ(Assessment of Basic Skills for Challenged Individuals 職業能力適性評価)

- ・学習課題の設定や進路指導に役立てることをねらいとして、特別支援学校高等部 2 年生の作業能力検査を実施している。田島支援学校、中央支援学校を合わせて計 45 名に実施した。

## 3 学校の特別支援教育に関する支援の充実

### (1) 小・中・高等学校における特別支援教育の推進



- ・支援機関の情報共有、進学時の引継の充実のため、個別の指導計画の活用を重点に取り組んだ。個別の指導計画の作成数が増えている。新学習指導要領の改訂に伴い、サポートノートの新書式の検討会議を開催し、書式を提案した。今後、書式の確認、活用方法の検討が必要である。
- ・「平成 31 年度版 特別支援学級担任のためのハンドブック」を更新し、発行した。
- ・「平成 31 年度 コーディネーター必携」「必携書式版」を更新し、SAINS に掲載した。

## (2) 支援人材の活用

- ・巡回相談員：臨床心理士等の心理専門家を、中学校の希望校 46 校（延べ 94 回）、小学校の希望校 32 校に派遣した。
- ・巡回指導員：特別支援教育に熟達した退職教員 1 名について、小学校新コーディネーター配置校への計画派遣を 83 回、小学校への要請派遣を 41 回実施した。センター的機能の充実に伴い、この事業は 31 年度までとなる。
- ・高等学校支援員：要請のあった高等学校へ 33 回派遣した。
- ・特別支援学校地域支援部：A 手帳、1 種 1 級の身体障害者手帳、難聴の児童生徒が在籍する延べ 138 校の小中学校へ計画派遣した。要請派遣も 35 校に延べ 94 回実施した。
- ・通級指導教室（情緒・言語）センター的機能：小中学校に 1198 回派遣した。
- ・専門家活用：小学校で 1 回実施した。

## (3) 特別支援教育サポート事業

- ・特別支援教育サポート事業の推進（NPO 教育活動総合サポートセンターに委託）  
4 回のサポーター研修を実施した。小・中・高等学校及び特別支援学校に延べ 21,656 回配置した。

## (4) 特別支援学校指導主事訪問

## 4 特別支援教育に関わる研修の充実

### (1) 必修研修

- 特別支援教育コーディネーター養成研修（6 回）延べ 437 人
- 特別支援学級等新担任者研修（8 回）延べ 1088 人
- 特別支援学級等新担任者 2 年目研修（3 回）延べ 273 人
- 通級指導教室新任者研修（6 回）延べ 152 人

### (2) 希望研修

- 特別支援教育Ⅰコーディネーター専門（4 回）延べ 131 人
- 特別支援教育Ⅱ通級指導教室専門（6 回）延べ 403 人
- 特別支援教育Ⅲ「重度の障害がある子への支援」（5 回）延べ 53 人
- 特別支援教育Ⅳ「聞こえや見え方に課題のある子への支援」（4 回）延べ 32 人
- 特設研修「授業のバリアをやわらげる～読むことが苦手な子に対する支援～」（1 回）44 人

### (3) リクエスト研修

- ・29 年度 18 校、30 年度 26 校、元年度 22 校。わかりやすい授業作りに関連する依頼が多かった。

## 5 特別支援教育推進に関わる研究の実施

### (1) 長期研究員と研究員による研究

- ・「「具体的な目標設定」による授業改善－自立活動の指導における P D C A の実践－」という研究テーマで、自立活動における授業改善について研究した。研究報告会に 138 名が参加した。

### (2) 指導主事研究

- ・各学校への調査「川崎市特別支援教育体制充実事業アンケート」を行い、校内支援体制や児童生徒に対する支援の効果などの検証を行い、事業の目標や各施策等の改善につなげた。

## 6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場（川崎市適応指導教室）の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。そのほか、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連携会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。令和元年度の各事業の状況は次のとおりである。

### 1 教育相談事業の実施状況

#### (1) 来所面接相談の実施状況

##### ① 来所面接相談件数

表1は令和元年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数350件のうち245件が令和2年度に継続されることになった。

[表1-1 令和元年度 来所面接相談件数と終結件数]

	相談件数	終結件数	令和2年度への継続件数
継続	223	80	143
新規	127	23	102
合計	350	103	245

[表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）]

		相談件数	終結件数	平成31年度への継続件数
不登校	継続	163	55	108
	新規	82	14	68
いじめ絡み	継続	6	2	4
	新規	3	0	3

##### ② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については10日以内に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

[表2 月別、対象別 来所面接相談総回数]

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 面接 相談	教育 相談 室	親	147	174	209	197	159	219	223	226	224	190	195	154	2317
		子	100	121	137	143	125	153	152	144	163	150	155	122	1665
	ゆう ゆう 広場	事前相談	9	25	21	17	10	21	35	16	19	22	16	7	218
		通級相談	5	9	11	3	1	11	7	11	15	5	10	2	90
		継続相談	23	52	33	43	5	54	60	49	56	65	55	54	549
	合 計			284	381	411	403	300	458	477	446	477	432	431	339

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

[表3 月別回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	1	7	5	4	1	2	5	4	6	6	3	4	48

④ 新規来所面接相談の相談内容

[表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳]

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	1	0	0	0	1	0.79%
性格・行動	75	33	7	0	115	90.55%
進路・適性	0	0	0	0	0	0%
身体・神経	2	0	0	0	2	1.57%
その他	7	2	0	0	9	7.09%
合計	85	35	7	0	127	
不登校(再掲)	49	27	6	0	82	64.57%
いじめ絡み(再掲)	2	1	0	0	3	2.36%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容(午前9時～午後6時)

[表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳]

	就学前		小学生		中学生		高校生		その他	合計			合計
	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人		保護者	本人	他	
知能学業	0	0	35	0	13	0	1	0	6	49	0	6	55
不登校	0	0	43	0	39	1	17	0	4	99	1	4	104
いじめ	0	0	12	0	4	1	0	0	3	16	1	3	20
友人関係	0	0	26	1	6	1	5	2	2	37	4	2	43
性格行動	2	0	26	0	4	1	6	4	5	38	5	5	48
進路適正	22	0	24	0	9	1	6	0	4	61	1	4	66
身体神経	1	0	8	1	1	2	1	2	3	11	5	3	19
教育一般	1	0	111	3	56	4	31	2	16	199	9	16	224
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	9	1	0	9	10
合計	26	0	285	5	132	11	68	10	52	511	26	52	589

② 24時間子供SOS電話相談の件数

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

[表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数]

	受付時間	相談者					計
		小学生	中学生	高校生	保護者	その他	
相談 件数	9時～18時	18	15	23	56	126	238
	18時～9時	0	1	3	5	1	10
計		18	16	26	61	127	248
いじめ絡み(再掲)		5	2	1	8	0	16

## 2 研究・研修の状況

### (1) 研究

#### 長期研究員による研究

「川崎市における不登校の実態と支援に関する調査研究  
～小・中学校教員へのアンケートから課題を見出す～」

#### カウンセラー研究員による研究

「一人一人を大切にしたい『チーム学校』の構築に向けて～校外連携のための校内連携づくり～」

### (2) 研修

教育相談Ⅰ「いじめをうまない学級・学校づくり」(312研修) 延べ42名参加

教育相談Ⅱ「ケース会議の実際」(313研修) 延べ24名参加

教育相談Ⅲ「教員のための学校精神保健」(314研修) 延べ32名参加

リクエスト研修(600研修)7回実施 延べ274名参加

児童支援コーディネーター研修(836研修)全6回8コマ実施 延べ398名参加

#### その他

- ① 教育相談宿泊研修「子どもとのあたたかなかわりを求めて」
- ② 新規採用教員研修での教育相談研修「子どもとのかわりで大切にしたいこと」
- ③ サポーター研修会「子どもの理解と支援～自己肯定感を高めるための支援プログラム」

## 3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。  
令和元年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

[表7-1 令和元年度 家庭訪問相談状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	64	80	8	144
訪問以外回数	12	18	0	30
合計	76	98	8	174

[表7-2 令和元年度 実施後の状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	14	18	1	33
学校復帰者数	2	5	1	8
好ましい変化	4	2	0	6

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

#### 4 ゆうゆう広場の活動状況

川崎市適応指導教室は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。令和元年度は19名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

##### (1) 通級状況

[表8-1 令和元年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男子			3	3	2	8	16	20	37	42	99	115
女子		1		3	5	6	15	25	54	33	112	127
合計		1	3	6	7	14	31	45	91	75	211	242

[表8-2 令和元年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	2	7	9	4	1	5													14
幸	1	7	8	6	5	11		1	1										20
中原				8	7	15	17	17	34	4	4	8							53
高津							6	4	10	12	18	30	1		1				41
宮前							1	1	3	7	15	22	3		3	3	2	5	32
多摩							1		1	1	5	6	12	8	20	4	6	14	37
麻生														1	1	21	22	43	44
合計	3	14	17	18	13	31	25	23	48	24	38	62	16	9	25	28	30	58	241

たかつ女子1名は市外在住

[表8-3 令和元年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
8	43	51

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

[表8-4 中学校3年生の進路状況]

公立				私立 (サポート校を含む)			専門学校	就職	フリースクール	家事手伝い	未定	合計
全日制	定時制	通信制	福祉学校	全日制	定時制	通信制						
3	12	2	2	8	1	44	1	0	0	0	1	74

海外へ転居1名

##### (2) 体験活動

ゆうゆう広場全体の取組としてサマーキャンプ、親子ふれあい活動、そのほか広場ごとに講師を招いた各種の体験活動が行われた。

[表8-5 令和元年度 参加者数]

サマーキャンプ(1泊2日)	29
---------------	----

[表8-6 令和元年度 参加者数]

秋の親子ふれあい活動（10月）	66
-----------------	----

## 5 スクールカウンセラー配置事業

市内52校の中学校に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、特別支援コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

[表9 令和元年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

①不登校	②いじめ	③暴力	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
9776	139	44	119	1505	4	125
⑧④⑥を除く 家族関係	⑨教職員との 関係	⑩心身の健康・ 保健	⑪学習・進路	⑫発達障害等	⑬その他の主訴	合計
1305	279	2731	1113	1584	689	19413

- ・ スクールカウンセラー連絡協議会・研修会開催日

4月3日（水） 7月4日（木） 11月15日（金） 2月18日（火） 計4回

## 6 学校巡回カウンセラー派遣事業

学校巡回カウンセラー7名を教育相談センターへ配置し、市立小学校・特別支援学校・高等学校への派遣を行った。また、市立学校における事件事故に関わる緊急支援としての派遣を行った。相談件数は増加しており児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながっている。

[表10 令和元年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数]（緊急支援を含む）

小学校・特別支援学校	中学校	高等学校	計
112	2	203	217

[表11 令和元年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教員	計
小学校	436	58	411	905
中学校	0	8	8	16
特別支援学校	0	8	8	16
高等学校	81	465	550	1096
計	517	539	977	2033

## 7 不登校対策連携会議

不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員30名が集まり、年2回の不登校対策連携会議を開催し、連携強化を図った。

## 8 不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会及び進路情報説明会

令和元年9月21日（土）高津市民館において、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など237名が来場し、166件の個別相談が行われた。

## 7 広報及び刊行物等

### 1 川崎市総合教育センター所報

[発行] 令和元年6月、令和2年1月

[発行部数] 6,600部（A4版）

[主な記事] 第1号「【巻頭言】俳句から思うこと」

「カリキュラムセンター 事業・業務」

「【特集】自らの教師力をいかに高めていくか」

「情報・視聴覚センター 事業・業務」

「教育相談センター 事業・業務」

「特別支援教育センター 事業・業務」

「【特集】～共生社会の実現にむけて～「障害者差別解消法と合理的配慮」」

「令和元年度 教育委員会研究推進校一覧」

第2号「【巻頭言】子どもたちの心の居場所「教師としての覚悟」」

「カリキュラムセンター 学習評価について 学習評価の基本構造」

「情報・視聴覚センター 教育の情報化推進事業」

「特別支援教育センター 個別の教育支援計画についてご紹介  
します」

「教育相談センター 不登校家庭訪問相談」

「【特集】キャリア在り方生き方教育とSDGs」

### 2 総合教育センター要覧 令和元年度

[発行] 令和元年9月

[発行部数] 700部（A4版）

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

### 3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
1	事業報告書	3月	A4	48	600
2	教育課題研究 X VIII	3月	A4	24	6,900
3	小学校「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を 伸ばす学習指導と評価の工夫改善	3月	A4	50	冊子9,000 CD4,200
4	中学校「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を 伸ばす学習指導と評価の工夫改善	3月	A4	36	9,370

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
5	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」 を目指した教育課程編成のための資料 I 総則	3月	A 4	58	7,250
6	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A 4	8	2,600
7	川崎市立高等学校教育実践の記録	3月	A 4	96	656
8	夢を育てよう	5月	A 4	6	12,000
9	研究紀要 第28号	4月	A 4	195	450
10	研修案内	4月	A 4	73	500
11	研修一覧	4月	B 2	1	300
12	副読本かわさき2020	3月	A 4	190	13,900
13	海外帰国・外国人児童生徒指導の手引き Q & A	4月	A 4	34	250
14	初任者研修の手引き	4月	A 4	65	550
15	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	130	880
16	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	60	880
17	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	A 4	42	550
18	中堅教諭等資質向上研修 研修の手引き	4月	A 4	28	650
19	中堅教諭等資質向上研修 研修ノート	4月	A 4	36	650
20	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	105	430
21	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2月	A 4	292	200
22	保健体育学習指導の手引き	3月	A 4	200	300
23	スクールカウンセラー配置事業報告書	5月	A 4	104	135

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
24	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	5月	A4	20	300
25	特別支援学校担任のためのハンドブック	3月	A4	44	200
26	5分でわかる情報教育Q&A	3月	A4	82	1,500
27	川崎市立学校における教育の情報化推進計画	3月	A4	73	800

#### 4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書



## 令和元年度 事業報告書

令和2年10月

編集・発行 川崎市総合教育センター

所在地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail [KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp](mailto:KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市